Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る？」

第一巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞+toi8

KCA264-4
角川書店

まおゆう 魔王勇者

9784047157668

ISBN978-4-04-715766-8
C0979 ¥580E

定価：本体580円(税別)　発行：角川書店

1920979005808

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
第一巻

まおゆう
魔王勇者

第一巻

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ

キャラクター原案 水玉螢之丞+toi8

第一話 Archenemy and Hero 1st chapter 001

この我のものとなれ、勇者よ!

第二話 Archenemy and Hero 2nd chapter 047

わたしをニンゲンにしてください

第三話 Archenemy and Hero 3rd chapter 089

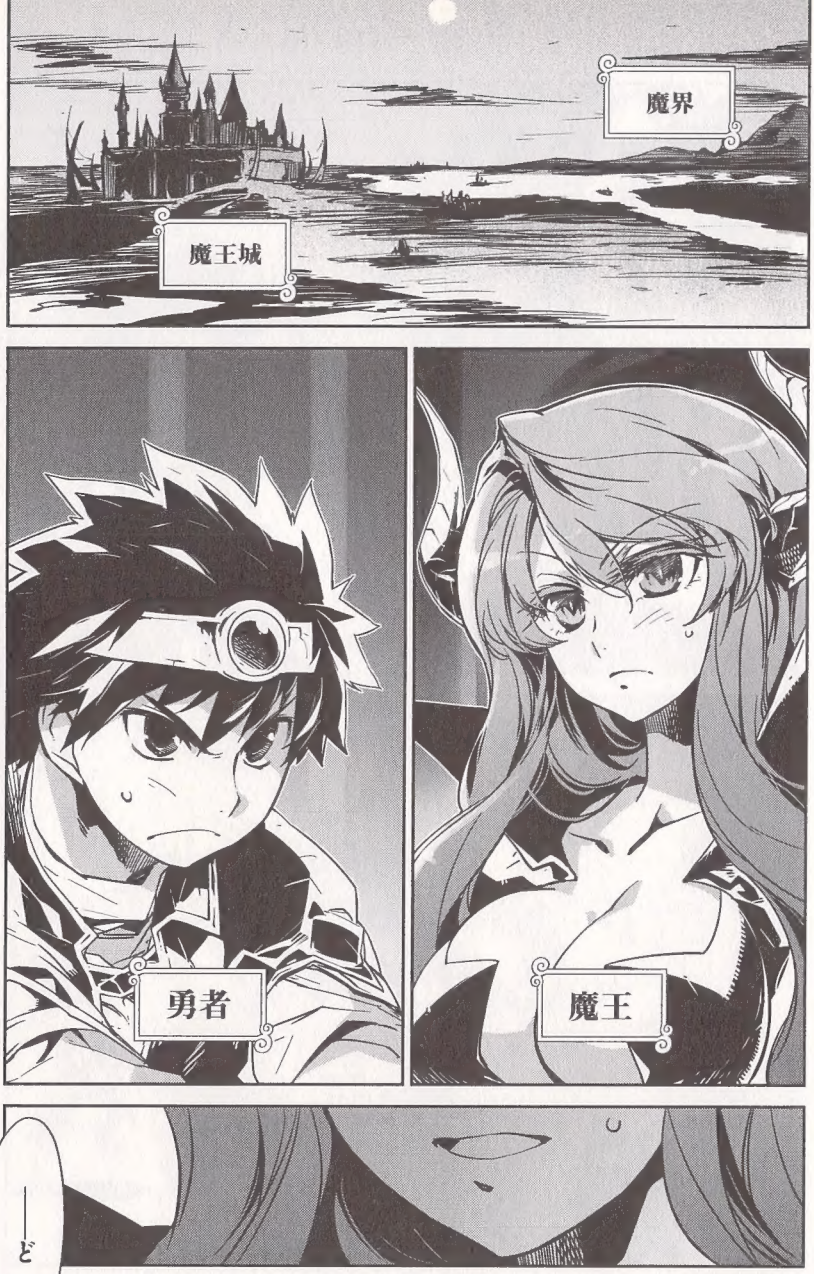
ごはんいっぱいは、とても幸せ

第四話 Archenemy and Hero 4th chapter 131

いままでどこをほっつき歩いていたのだ!

あおやま
Archenemy and Hero
魔王勇者
――「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」――
漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8
Archenemy and Hero 1st chapter
第一話
この我のものとなれ、勇者よ！

この我のものとなれ勇者よ！
断る!!


魔界
魔王城
勇者
魔王
――ど

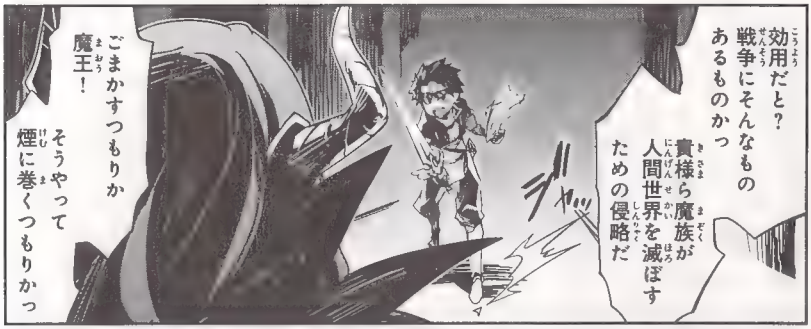
どーしてもか？
アホ言うな！
お前のせいで
いくつの国が
滅んだと
思ってるんだ!!

北の森の国では
空は黒く染まり
人々は貧困に
沈んでいった…
考えなしに森林伐採して
木炭作りまくって
公害で自滅したんだろう
錫の国では
大臣が魔族に操られ
国が乱れた…
欲の皮の突っ張った
大臣が政権奪取と
姫君大集合ハーレムを
つくろうとして失敗しただけだ

いろいろとすぐに
魔族のせいにするのは
人間の悪い習慣だと思うぞ
ごまかすのか…
許せん……！
ごまかしてない
南部諸王国との
戦争はどうなんだ
俺は戦場で何百という
人間が魔族の軍勢に
倒されているのを
この目で見てきたんだ
魔王…
侵略してきた
お前のせいでな

どちらが侵略したかという点については見解の相違だ
それに人間が魔族を殺していないとでも？
――貴様は悪だ！
魔族は悪で人間が善だって誰が決めた？
戦争で敵を殺すのが悪だというのなら魔族を殺した人間も悪ではないか
……

この資料を見ろ
ぴら…
なんだ これ
羊皮紙…
じゃないのか
つるつる ぜ…
紙はどう
でもいい
内容が
重要なんだ
雇用
需要爆発
消費動向
経済依存度
ゴゴゴゴゴゴ
…なんだ
これは
邪神の
儀式か？
違う
経済的視点から
見た 巨大消費市場
としての
戦争の効用だ


効用だと？
戦争にそんなものあるものかっ
貴様ら魔族が人間世界を滅ぼすための侵略だ
ブォッ
ごまかすつもりか魔王！
そうやって煙に巻くつもりかっ

う……
？

勇者がどうしても
というのなら
ちゃんと戦う
話によっては
討たれてやってもいい
――だから半日ほど
話を聞いてくれ
これは――
星辰の果てる
永劫の中にある
チャンスなんだ

…いいだろう
話せ
ただし
怪しいことをしたら
いつでもその首
落ちると思えよ
わかってる

では説明する
手元の資料の
1ページ目を

ぴら…

表だ

消費量
景気指数
人口
大飢饉
第一次
聖鍵遠征軍
第二次
聖鍵遠征軍

グラフと
いうのだ

これは中央大陸の
この50年の消費量と
景気 それと人口を
可視化したものだ

気がついたように
我らが戦争を始めた
15年前から中央大陸の
景気は上昇局面に入った
人口も順調に
増加を始めている

第一次
聖鍵遠征軍
第二次
聖鍵遠征軍

……

ウソだ

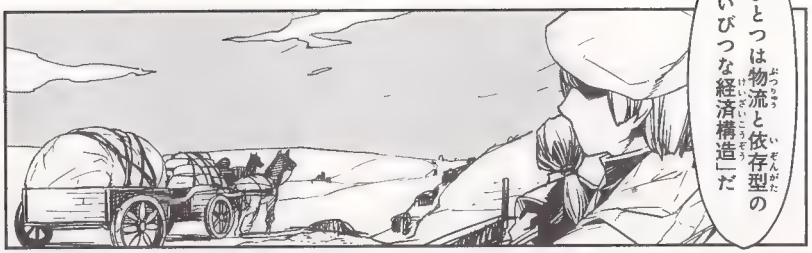
そんなのは理屈で考えておかしいだろう！
戦争で人が死ぬことはあっても増える道理などあるものか！
まぁ一般解はそうだろうな
しかしこの世界における戦前の常識では違う
戦前の――まぁこの戦前は数百年続いたわけだが世界では人間の死因は「疫病」と「飢餓」だったのだ
この二つは非常に強大な敵で人間は結局５００年以上克服できなかった
人口は増えるどころか時には疫病が猛威をふるい国単位で滅亡することも少なくなかった

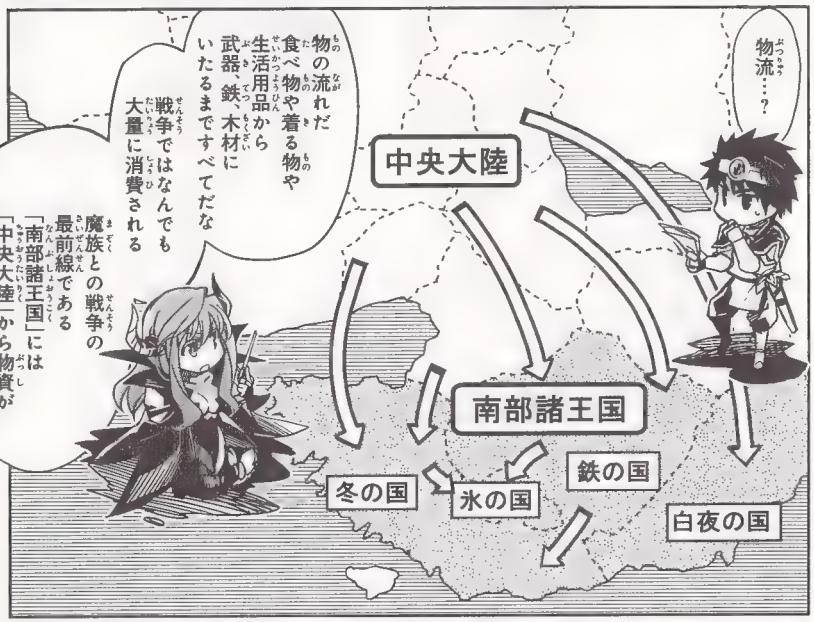
疫病と飢餓…
戦争が開始されてから
これら二つを原因にする
死者は60％まで低下した
…なぜだ
魔族の暴威を見かねた
精霊の恩寵か？
私は結構長生きしてるが
精霊など見たことはないよ
理由は明白だ
最大の原因は
「中央大陸危機会議」の
設立だよ

つまり
魔族との戦争に対して
人間の王国が団結して
連合を組んだんだ
それにより食料の多い国が
少ない国へ送ったり
医療や農業技術が
進歩した国が指導を
行ったりしたからな
それこそ人間の
手柄じゃないか！
その程度のことも
魔族と喧嘩しなければ
実行できない人間が
大きなことを言っては
いけない

…
そんなに悔しがるな
魔族だって大差はない事情だった
乱世だったのだ
魔族は部族を中心とした「氏族社会」だ
有力な族長や領地をもつ豪族が次々と覇権を争って血まみれの戦いを繰り広げていた…
人間との戦争が始まるまでは
まぁ そんな事情で
戦争は人間と魔族を救った

戦争に意味が…
結果的にあった
かもしれない
そう言って
もらえると
ほっとするよ
だが 続けていい
理由にはなってない
始めていい理由にも
なっていない
私利私欲でやった
わけじゃないってのは
ちょっとだけわかった
俺が付き添って
やるから投降しろ
んー…
それは
難しいな
なぜだ？
理由は
二つある


ひとつは物流と依存型の
「いびつな経済構造」だ


物流…？
中央大陸
南部諸王国
冬の国
氷の国
鉄の国
白夜の国
物の流れだ
食べ物や着る物や
生活用品から
武器、鉄、木材に
いたるまですべてだな
戦争ではなんでも
大量に消費される
魔族との戦争の
最前線である
「南部諸王国」には
「中央大陸」から物資が
流れこんでいく

？
南部諸王国は
どうやって
支払ってるんだ？
ん？
だって
物を買ったら
お金が必要
だろう？

よく気が
ついたな
えらいぞ
撫でようと
するな！

その財源は
中央大陸
危機会議決議による
戦時支援基金だ
全世界が戦争中の
南部諸王国に
義援金を送ってるんだ

そうだったのか！
これでわかったろ
魔王！
助けあう
温かい心！
これが人間のもつ
優しさなんだ！

そのお金で
中央大陸の国々は
自分の国の品物を
買ってもらって
いるんだ
お小遣いをあげて
自分の店の商品を
買わせているわけだ

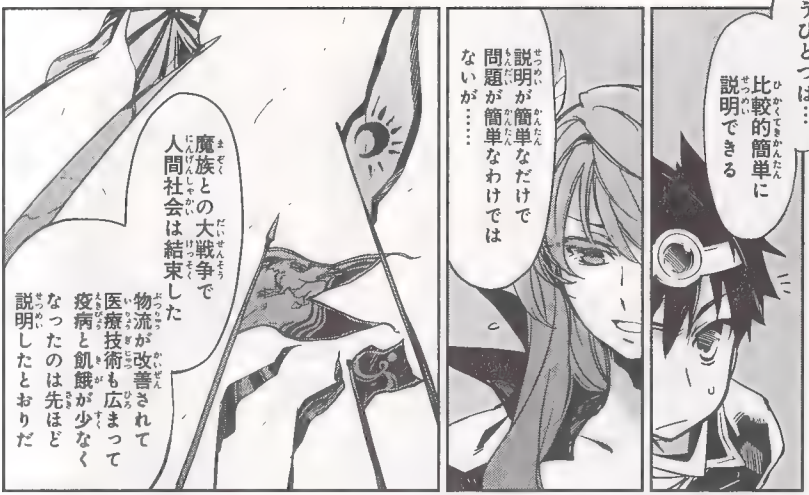
……？
？
？
どういうコトだ…？
うーん…
つまりだ

富を貯めこむってのは
「お金持ち」にはなれても
「豊か」にはなれないんだ
お金を渡して
使ってもらう
物もお金も流れが
よどみなく太いことが
「豊か」なんだよ

それは…
おかしくないか？
南部諸王国が使うお金は
中央大陸の国家が送った
義援金だろう？
その…物流？が
よくなったとしても
送ったお金はもともと
自分のものじゃないか

南部諸王国は
中央大陸に「安全」を
輸出しているんだ
つまり戦争で血を流して
人間世界を防衛することで
中央大陸からお金を得ている
人間世界のすべてが
戦禍に見舞われている
わけじゃないだろう？

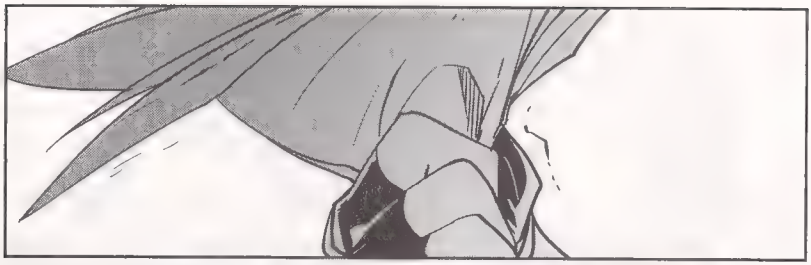
人間社会は「巨大消費」と
「防衛ライン」という面で
南部諸王国に
依存しているんだ
戦争が終わり これだけの
巨大消費がなくなったら
中央大陸の生産者は
大ダメージを受ける
そのダメージは波及して
数万を超える死者が
出るだろう


もうひとつは…
比較的簡単に説明できる
説明が簡単なだけで問題が簡単なわけではないが……
魔族との大戦争で人間社会は結束した
物流が改善されて医療技術も広まって疫病と飢餓が少なくなったのは先ほど説明したとおりだ

だがこの世界の食料生産そのものが劇的に向上したわけじゃない
数こそ減ったがまだ餓死者はいる
ああ
旅の途中何度も飢えた子供を見たよ

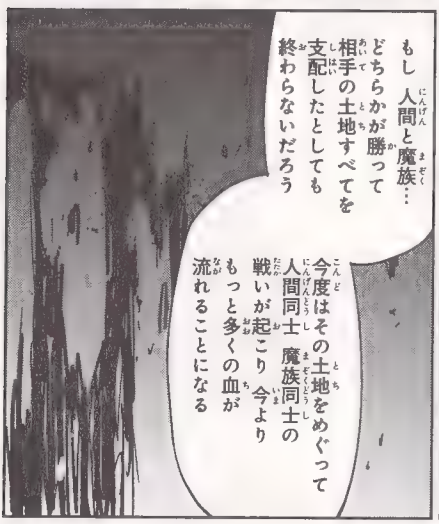
そんな世界で
「大戦争による死者」が
いなくなったらどうなる？
長い戦争で剣を振るう
以外に生きる術を知らない
何十万人もの人間が
中央大陸にあふれるんだ
彼らは生きているから
食料を必要とする
――でも食料は
そこまで増えない
そんな…
…それが
現実なんだ

だいたい
なんで君はひとりで
ここにいるんだ？
……へ？
……
魔王を倒して
戦争を終わらせる
それが俺の
勇者としての
使命だ！
戦争を終わらせるのは
軍の仕事だろう
敵の王の命を
単身仕留めるのは…
暗殺者の
仕事だ



…たぶんね
人間の王たちも
わかっている
――この戦争が終わったら
勝っても負けても
人間は滅びてしまうって

私が投降しても
秘密裏に処理されて
新しい魔王との
戦争が続くだろう
それくらいこの戦争は
人間社会に必要になって
しまっている
――たぶん
君が倒れても


もし 人間と魔族…
どちらかが勝って
相手の土地すべてを
支配したとしても
終わらないだろう
今度はその土地をめぐって
人間同士 魔族同士の
戦いが起こり 今より
もっと多くの血が
流れることになる

いろんな世界がそうやって滅びていった……
世界…？
うん まぁ気にしないでくれ
私は
私はまだ見たことがないものが見たいんだ
……？
うーん…つまり

君は旅をしていて…
「あの丘の向こうに何があるんだろう？」って思ったことはないかい？
「この船の向かう先には何があるんだろう？」ってワクワクした覚えは？
そりゃ…あるけど
わりとたくさん
そうだろう？勇者だものな！
なんぞうれしそう。

だから
そういうものが
見たいんだ
…勇者に
なりたいのか？
近い
でも違う
今のこの身は
魔王だ……
やってて幸せとは
言えないけれど
責任を感じるし
ほかの誰かに
押し付ける気もない
けれど
見たことがないものは
見てみたい
だから
もう一度言う
『この我のものとなれ、勇者よ』
私が望む
未だ見ぬものを
探すために
私の瞳
私の明かり
私の剣となってほしい

断る
ダメか？
ダメ
絶対か？
絶対
交渉の余地はないのか？
ない
……
…ないぞ？ホントだぞ

あると見た
なんでそこで上目づかいなんだよ
学者がとっていい態度かよ
学者であると同時に私は経済屋なんだ
経済屋は決して諦めない
どんなことにも妥協して明日を目指すんだ！
なんだか俺より勇者っぽい
故事によれば「世界の半分」を交渉材料にするらしい
そんなので転ぶ勇者がいるかよ
もしいたらそいつは勇者でもなんでもないぞ
うん
私の知っている故事でも結末はそうなっていた
私としても領土の割譲をテーマに交渉する気はない
それでは結局「こちら」と「そちら」が再生産されるだけだ
人間世界
魔族世界
勇者の土地
魔王の土地
故にその種の論法は却下だ

じゃあ
交渉も失敗だな
…戦う気分じゃ
なくなっちゃった
けれどさ
いや
ちゃんと
提案はある
半分などと
けちくさい
ことは言わない
でも大地は私の
ものではないから
差し出せない
勇者が欲しい
代価は私に
払えるすべて
つまり
私自身だ
これだけは私の意志で
勇者に捧げられる
お願いだから
私のものになってくれ

……おお
おまっ
何をっ
何言ってるか
わかってるのかっ!?
わかっている
交渉の提案だ

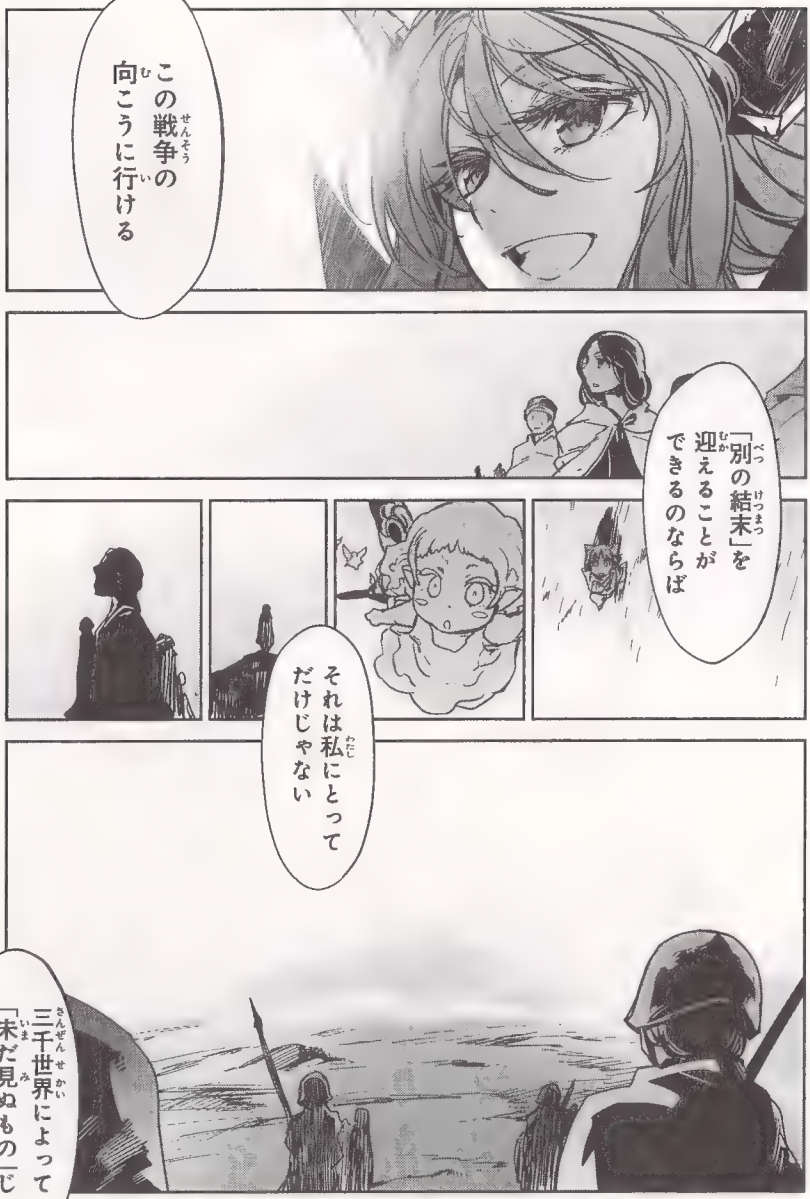
ぱく
ぱく

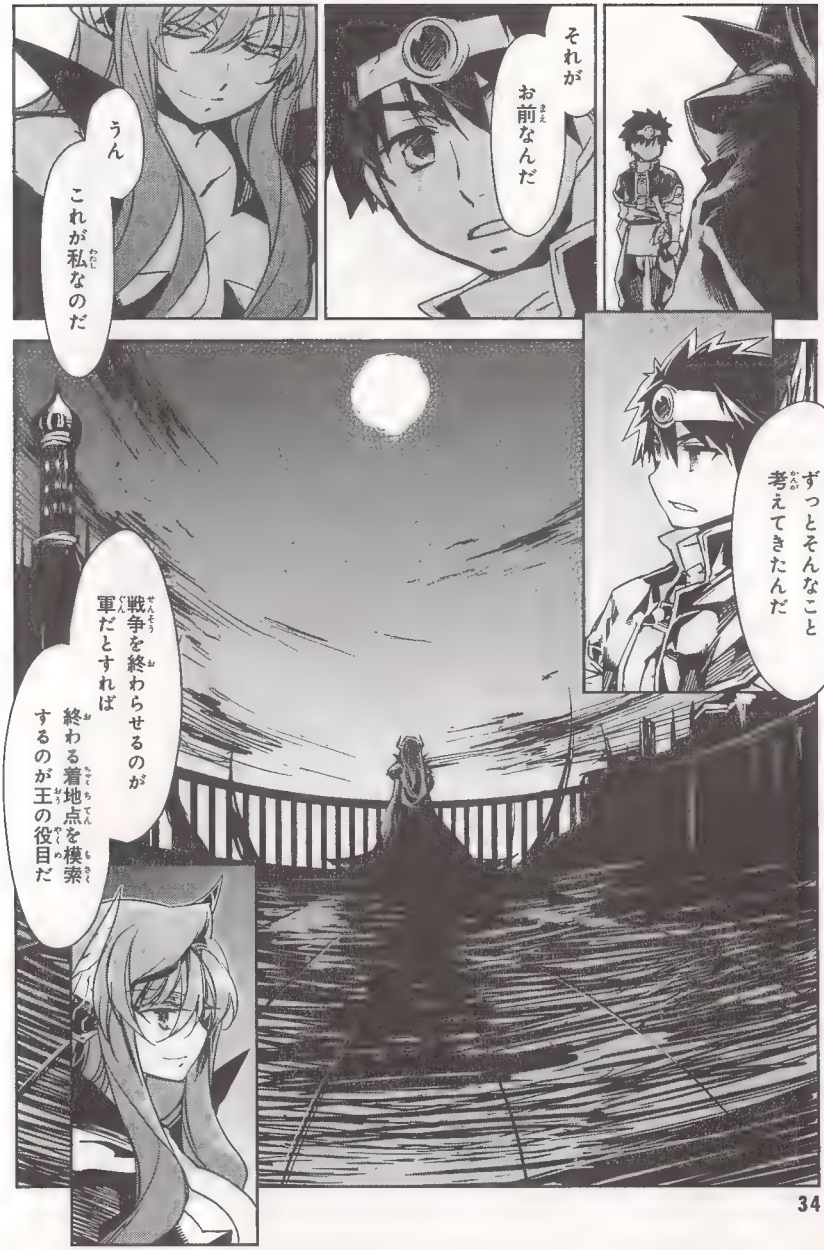
もうちょっと
もの考えて発言しろ!
わ
わ
わきまえろっ!!

そんなに驚かないでも
良いではないか
人間世界では15にもなれば
誰とでもそこら中でこのような
睦言と甘やかな契約を交わして
乳繰りあっていると
書物で読んだぞ
――読んだだけで
実体は不明で経験もない
これもひとつの
「未だ見ぬもの」だな

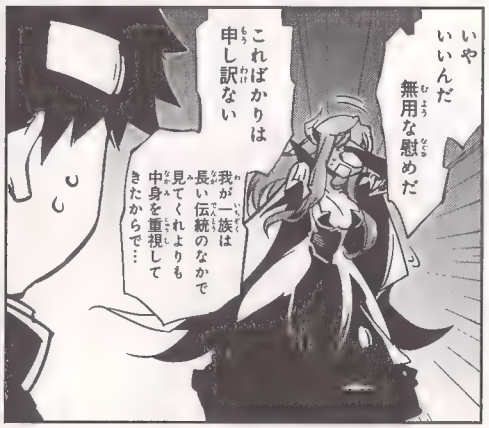
「純潔を捧げる願い」を
告白するなど
私の人生に訪れるとは
思っていなかった知見だ
精神的に平静で
いられないなんて貴重だな
まるっきり
平静に見えるよ
ダメか？
だっ
ダメッ!!
絶対か？
ぜぜぜ…
前回よりも
さらに余地がある
ように見える
近寄るなっ!!!

少しセールストークをする
私を独占するといろいろ便利だぞ？
押されてる…
例えば？
家計簿をつけるのが得意だ
完璧を約束できる!!
…家計簿？
そう！
キリッ
…それにね


この戦争の
向こうに行ける
「別の結末」を
迎えることが
できるのならば
それは私にとって
だけじゃない
三千世界によって
「未だ見ぬもの」じゃ
ないだろうか？

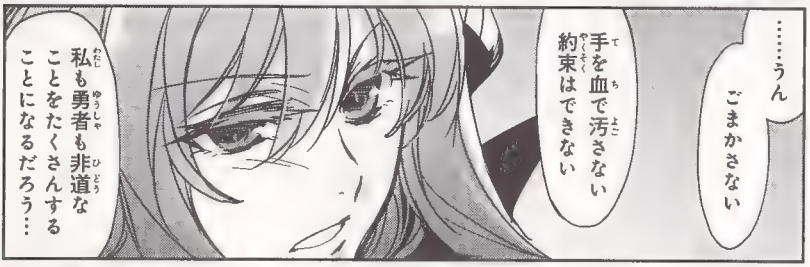

それがお前なんだ
うん これが私なのだ
ずっとそんなこと考えてきたんだ
戦争を終わらせるのが軍だとすれば 終わる着地点を模索するのが王の役目だ

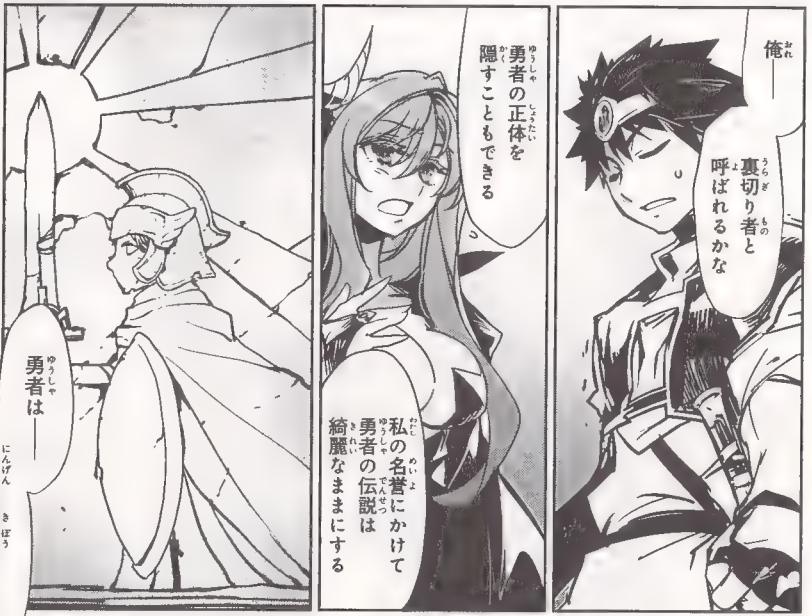
それと…
契約詐欺にならないようにあらかじめ告げておかなくてはならないのだが
私は料理は不得手だ
あー
それから
世間の大多数の一般的な性別において男性を有する成人の人間が望むような…
外見的肉体的な美しさには欠けていると思われる
そうか？
そ そんなことないだろ
その…
…とくに胸とかおっぱいとか


いやいいんだ
無用な慰めだ
これればかりは申し訳ない
我が一族は長い伝統のなかで見てくれよりも中身を重視してきたからで…
娘時代…そう150年ほど前に身なりやお手入れに気を配っておれば…
こんな一世一代の交渉時にリコールに怯える経営者の気分を味わわないで済んだはずなのに…
？

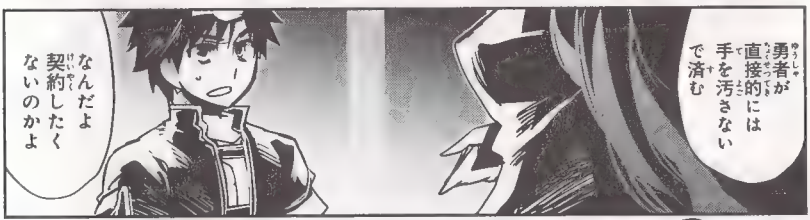
他には…そうだな
経済を中心にした
知識と…知識と…
それくらいしか
誇れないのか
私はっ!?
あと誇ることが
できるのは
貞淑さくらいだ
私は長命種で
学者の家系で
純然たる契約
主義者でもある
健やかなる時も
病める時も寄り添おう
――それは
約束できる
どうだ？
私のものに
ならないか？
私はあんまり
ワガママは
言わないぞ
「丘の向こう側」に
一緒に行ってくれれば
それだけで満足だ
――勇者？
…もし
もしもさ

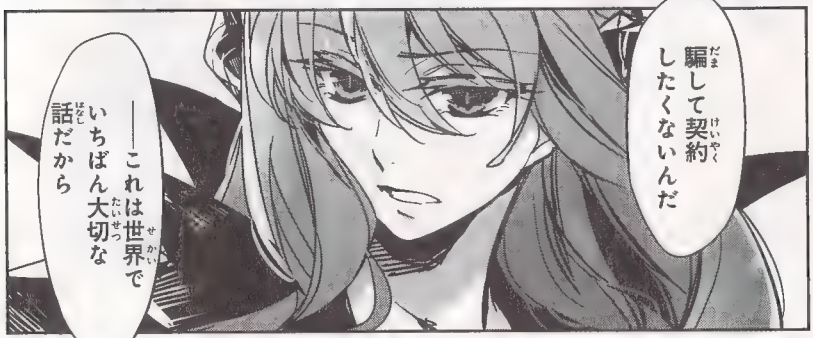
もし…
俺が魔王のものになったら
…たくさん血が流れることになるのかな
殺すことにもなるんだろう？


……うん
ごまかさない
手を血で汚さない約束はできない
私も勇者も非道なことをたくさんすることになるだろう…


俺——
裏切り者と呼ばれるかな
勇者の正体を隠すこともできる
私の名誉にかけて勇者の伝説は綺麗なままにする
勇者は——
人間の希望だものな

「丘の向こう」って
絶対に必要なのか？
それは違う
このままワルツのように
戦争と消耗を繰り返し
屍山血河の平和を
享受することも——
この世界に許された
選択肢のひとつだ
戦争は続き
犠牲が出るだろう
おびただしい
——でも


勇者が
直接的には
手を汚さない
で済む
なんだよ
契約したく
ないのかよ


騙して契約
したくないんだ
——これは世界で
いちばん大切な
話だから

騙して手に入れたものは
一夜で失われる
信義に
厚いんだな
善悪の話
じゃない
ゲーム理論で証明された
商道徳レベルでの話だよ
つまり
「囚人のジレンマ」を
超克するためには
互いの利益が
重なるべきであって
それこそが安定した
互恵関係へと――
……
よし

お前のものになる
いいのか？
いいんだよ
…言っとくけどおっぱいのためじゃないからな
……？
こんなものがいいのか？
もむなッ!!
勇者
なんだよ
――触れたい

触っても
いいですか…？
え？
なんでそんな口調で
……ダメか？
べ、別に変な意図はないぞ
なんだったら私を縛っておいてもいい
私は契約を守る魔王だからな！
いいよ
…ほら

勇者は
あたたかいな
魔王の手
ひんやり
しているな
冷たいか？
すまない
いや
気持ちいいよ

――私は勇者のものだ
――俺は魔王のものになる

終 第一話
この我のものとなれ、勇者よ!

第一回

経済の発展と豊かさの正体

魔王が説く世界変革の鍵・経済。
“経済の発展や貨幣の効用”と、
物質的な「豊さ」に重要な
“物流”について見ていこう。

物々交換から発展した貨幣経済

人間がまだ原始的な生活をしていたころ、人々は小規模な集団で自給自足の生活を送っていた。やがて異なる環境に暮らす人々同士の接触が始まると、海辺に住む人々なら魚介類や塩を、山に住む人々なら動物の肉や山菜と、互いの地域にないものを物々交換をするようになった。これが経済の根本といえる。

やがて扱う品物の種類が増えてくると、今度は直接品物を交換する取引に不便さを感じるようになった。また入手の容易さなどによって品物の価値に違いが生じる。そこで品物の価値を形に表した道具として貨幣が考案され、貨幣経済がはじまった。

貨幣の登場によって品物を直接やりとりする必要がなくなったのはもちろん、交換した品物の差額分だけを支払うといった新たな取引の形態も生まれた。また、異なる国で違う貨幣を使用していても、レート（相場）を定めれば取引ができることから、貨幣を導入した国同士による貿易など、大規模な取引も行われるようになり、さらに経済規模が拡大していったのだ。

豊かさの定義とは？

貨幣経済では、物流が正常に機能している状態こそが重要になる。人物Aと人物Bの取引を例に説明すると、Aが品物を売るにはBが貨幣を持っている必要があり、Bが貨幣を得るにはAがBからなにかを買う必要がある。AとBは相互依存の状態にあるので、互いに相手の品物を買わないと共倒れになる。つまり、物流を機能させることが、双方にとっての利益というわけだ。

「まおゆう」では、南部諸王国が魔族と戦って中央大陸に安全を提供するかわりに多額の義援金を獲得。南部諸王国はその金で中央大陸から生活物資や軍需品を輸入している。一見対等にも見えるが、中央大陸側は安全に日々の生活を送りながら生産活動に従事し、さらなる発展に資金を使うことができるのに対し、南部諸王国は国内産業を発展させる余裕がないばかりか、戦争によって人的被害という損失まで出る。

中央大陸側が得なのは明らかで、全体的にみれば「豊かさ」とは「まともに日々の生活が送れる状態」といえるだろう。

戦争をしている国は巨大な消費市場でもあり、経済の活性化という効果もある。

ワンタッチ

◀◀◀ Continue to the next chapter

第二話 Archenemy and Hero 2nd chapter

わたしをゴンゲンにしてください

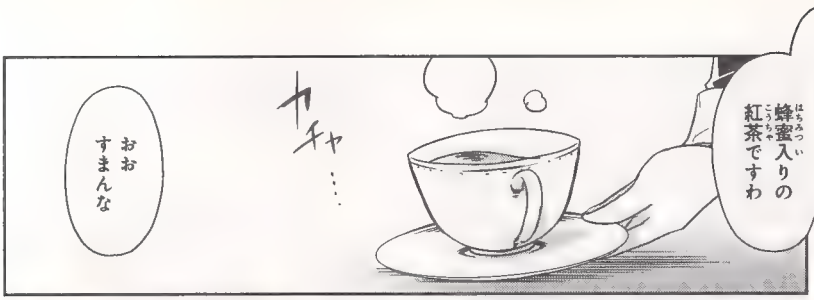
まさかこんなに早く自分の体力のなさが問題になるとは
ん？
どうかしたか？
いや…
変装するとは聞いたけど
ずいぶん印象が変わるなと
そうか？
私としてはこちらの方が普段着に近いのだが
アレはお仕着せ衣装でな
「勇者を迎えるのだから 魔王として恥ずかしくない格好を！」
――とメイド長に半ば無理やり…

誰だって？
ああ
ええと…
昔からの
側近だ
すでにこの村に
入って拠点となる
家を用意してくれて
いるはずなんだが…
どこなの
だろうな
まおー
さまー
まおー
さまー
まおー様～♪
お待ちして
おりました♪
おお
捜したぞ

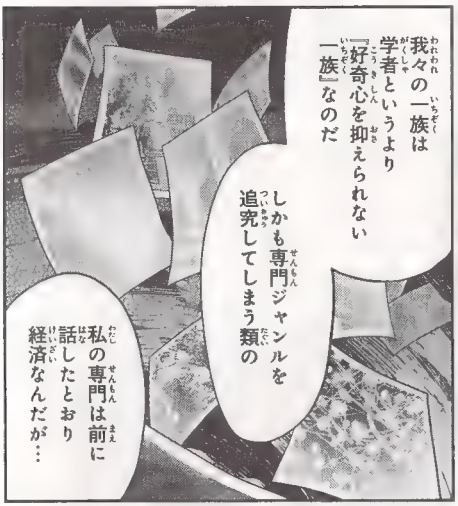
紹介しよう
メイドを束ねる
メイド長だ
ご紹介にあずかった
メイド長です
まおー様のことは
幼い頃からお世話を
させていただいて
おりますわ
メイド長

このバカッ
人間の村で
「まおーまおー」
叫ぶなっ！
それもそうだ
以後注意
するように
はい
まおー様♪

では お二人の愛の巣に ご案内しますわ
さほど大きくは ありませんが 村はずれの古い館を 改修してございます
アイース…？
でかしたぞ メイド長
もとは没落貴族が 手放した別荘 だそうです
無論 正規の 手段で購入し 修繕いたしました
なんだよ 十分でかい じゃないか
とんでもない 魔王城の 百分の一です
ダンジョンと 比べるなよ
いや 私はあそこに 住んでいたんだが…

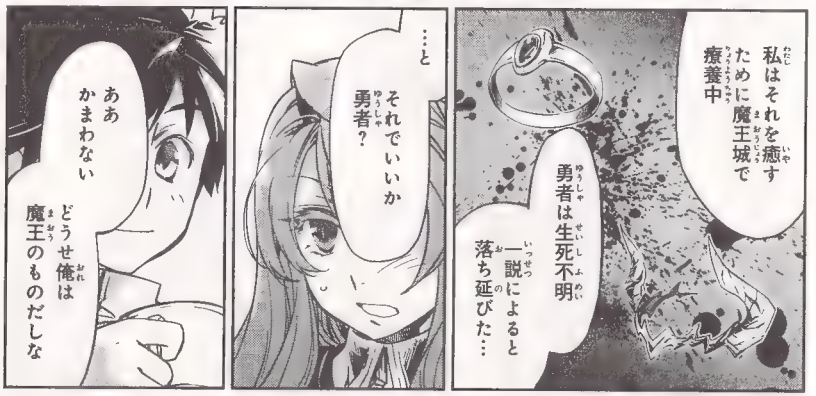

どうぞ
蜂蜜入りの
紅茶ですわ
カチャ…
おお
すまんな

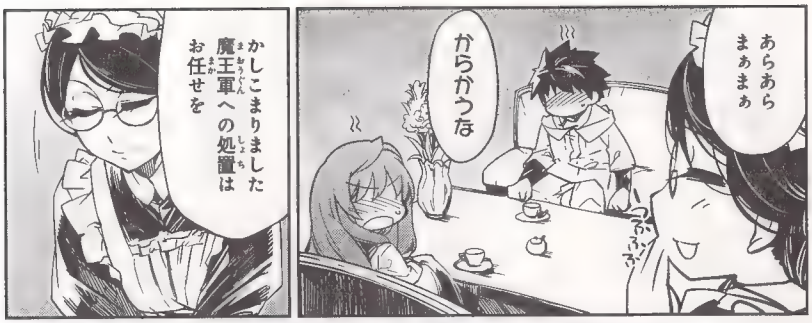
こう見えてメイド長は
私の親戚なのだ
へー？
ってことは
学者なのか？


我々の一族は
学者というより
『好奇心を抑えられない
一族』なのだ
しかも専門ジャンルを
追究してしまう類の
私の専門は前に
話したとおり
経済なんだが…

私が究むるは
『メイド道』！
その道は
殿方における
騎士道などに
勝るとも劣らぬ
果てなき道――
お茶汲み・掃除・
洗濯など 家事は
言うに及ばず…
主人の護衛から
一軍の指揮まで
主人のあらゆる
求めに応えますわ
すごいな
メイド!?

軍といえば
…まおー様
魔王軍の方は
いかがいたしましょう
ああ
そうだな
？
勇者と私は
魔王の大広間で
決闘をしたとしよう
そこで両者共に
深い傷を負った
という噂を流せ

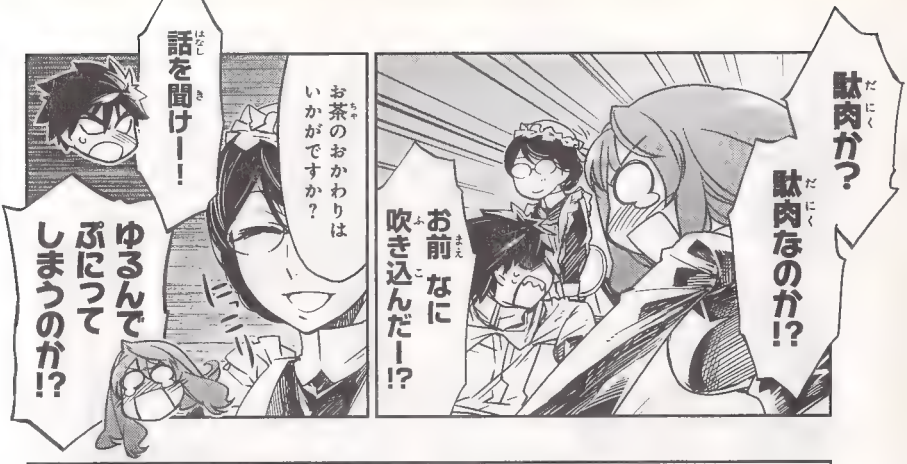

私はそれを癒す
ために魔王城で
療養中
勇者は生死不明
一説によると
落ち延びた…
…と
それでいいか
勇者？
ああ
かまわない
どうせ俺は
魔王のものだしな

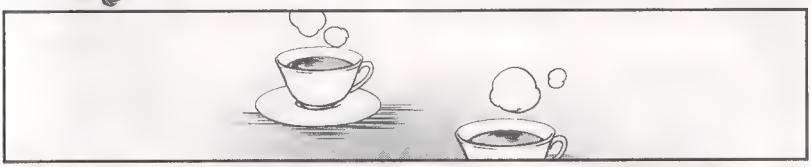

あらあら
まぁまぁ
からかうな
かしこまりました
魔王軍への処置は
お任せを

この噂で一年くらいの
時間は稼げよう
その他にも手は打って
粘るつもりもあるが
…まぁ 猶予は
三年といった
ところだろうな
三年か…
ギシッ…

この村での根回しは
どうなっている？
村長以下
主だった方々には
すでに挨拶を
貴族の姫君で
聖王都の神学院を
卒業された
高名な学士だと
そんなので
通るのか
格好さえどうにか
すれば余裕だろう？

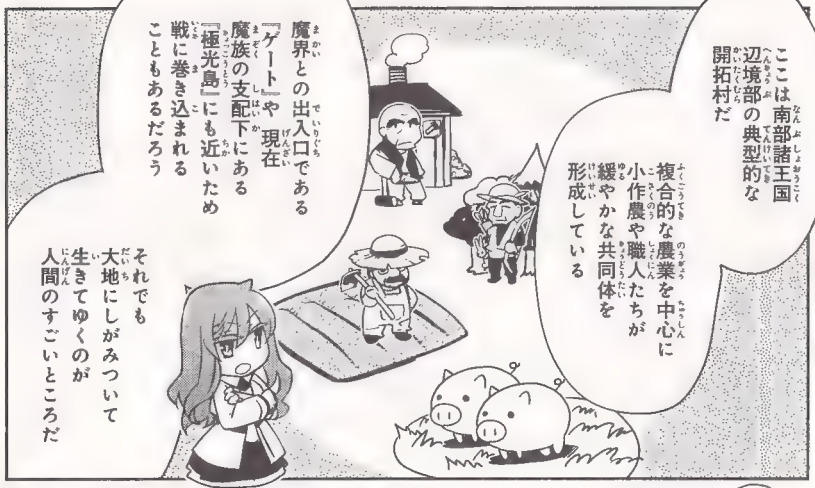
この格好ではダメかな
着心地がいいんだが…
ダメでしょうね
姫君というものは着心地よりも外見…
視線を意識せざるを得ない服で緊張感を維持しているものかと
キンキュウカンって
お耳を拝借いたします
何だ？
勇者！緊張感のない肉は駄肉か!?
なぁ
!?


駄肉か？
駄肉なのか!?
お前 なに 吹き込んだー!?
お茶のおかわりは いかがですか？
話を聞けー！
ゆるんで ぷにって しまうのか!?

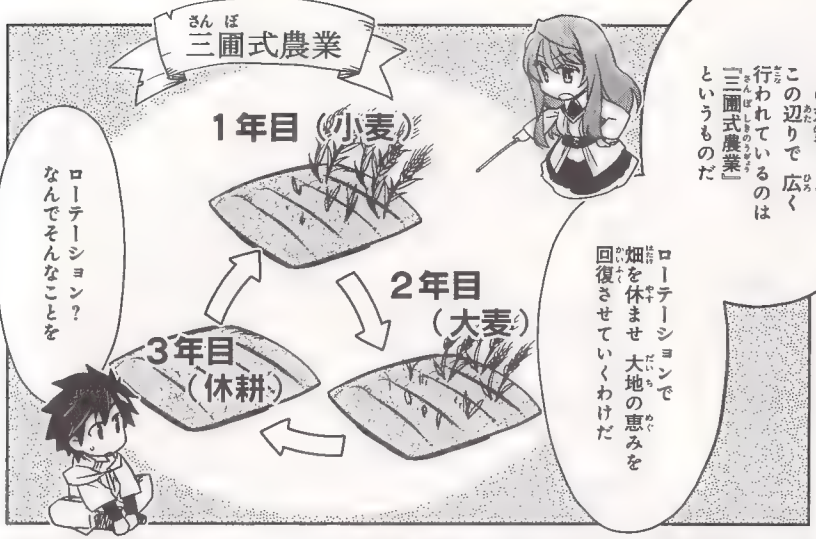


――まぁ そんなわけで この村を 選んだのはな
食糧から 手をつけようと 思ってのことなのだ

食糧か… 時間がかかり そうな問題だな
うむ 具体的には 農法の改善だな
のーほー？
農業の方法だ


ここは南部諸王国
辺境部の典型的な
開拓村だ
複合的な農業を中心に
小作農や職人たちが
緩やかな共同体を
形成している
魔界との出入口である
『ゲート』や現在
魔族の支配下にある
『極光島』にも近いため
戦に巻き込まれる
こともあるだろう
それでも
大地にしがみついて
生きてゆくのが
人間のすごいところだ

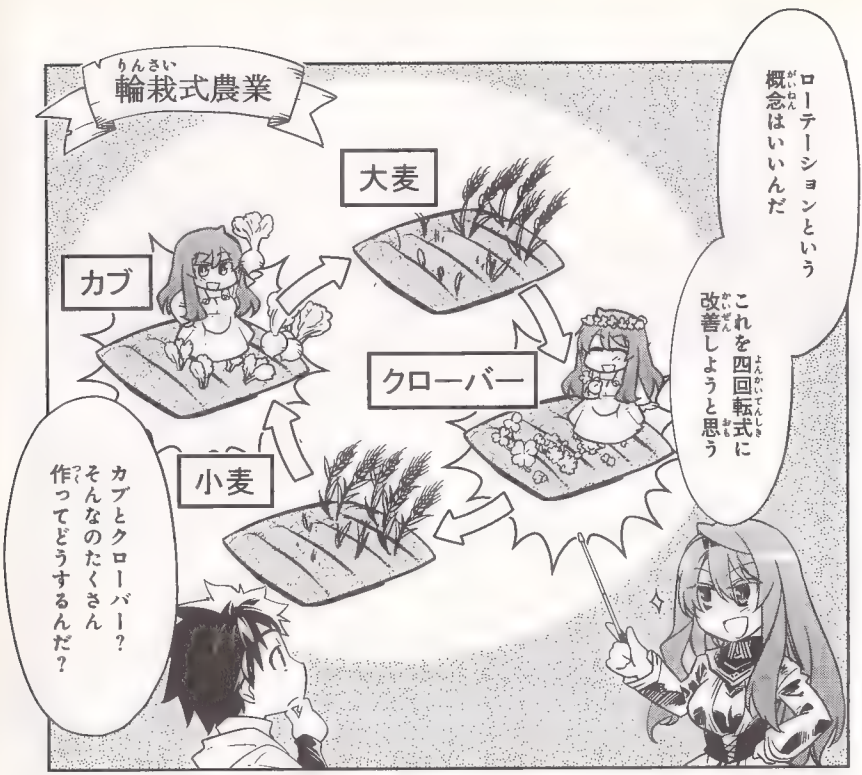
でも なんで
この村なんだ？
暖
寒
こう言っちゃなんだが
南部諸王国は冬も長いし
耕作に適した平地も
少ないし 戦争もある
もっと温暖で
農業の盛んな国の方が
食糧問題に取り組めそうな
気がするんだけど
ここを選んだのにも
理由があるんだ
そのうちわかる
へぇ？
同じ土地で麦を収穫
し続けると どんどん
質が悪くなるのは
知っているか？
ああ
大地の恵みが
なくなるって
やつだな

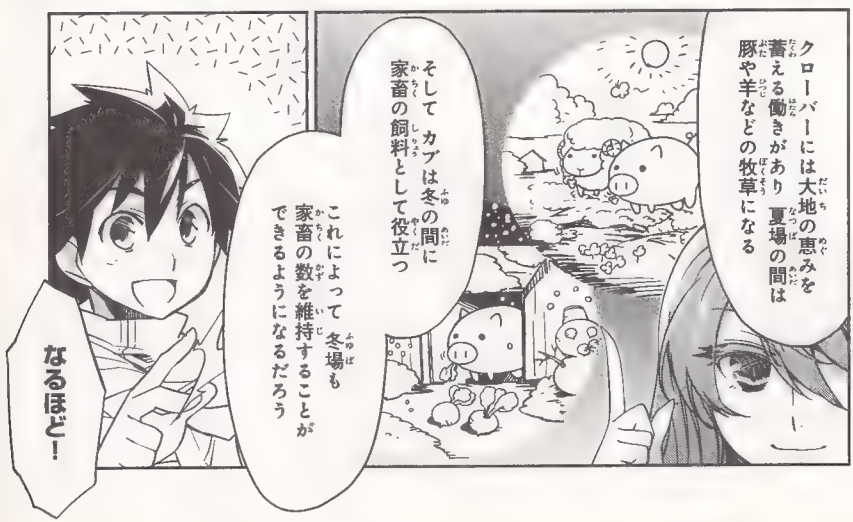

三圃式農業
1年目（小麦）
2年目（大麦）
3年目（休耕）
その対策としてこの辺りで広く行われているのは『三圃式農業』というものだ
ローテーションで畑を休ませ大地の恵みを回復させていくわけだ
ローテーション？なんでそんなことを

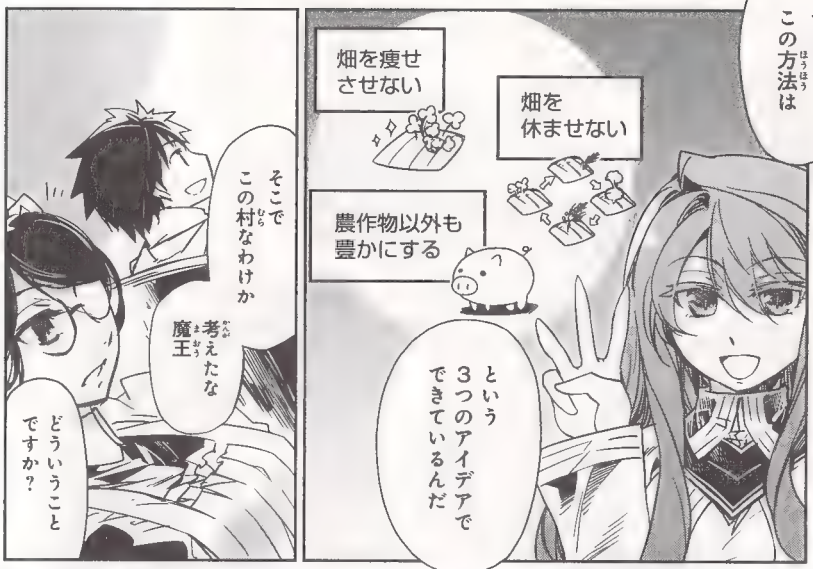
森や荒野を切り拓いて畑にするのは大変な労力を必要とする
作った畑を何度も使えるよう工夫しているのだ

また この寒く貧しい地方では肉食も冬場の重要な栄養素だ
しかし 冬の間は人間の食糧すら不足するから…
ああ
豚は冬が来る前に最低限の数を残してソーセージやハムにしちゃうんだ
この辺の冬の始まりの風物詩ってところだな

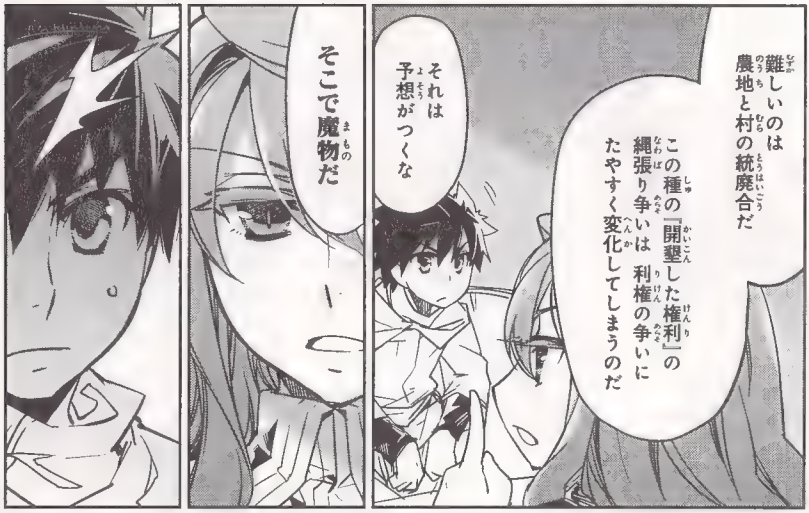
冬場の代替的補助食料なのに農業と同じように季節に支配されている
これは非効率的なことだ
…それもそうだな


輪栽式農業
大麦
カブ
クローバー
小麦
ローテーションという概念はいいんだ
これを四回転式に改善しようと思う
カブとクローバー？そんなのたくさん作ってどうするんだ？

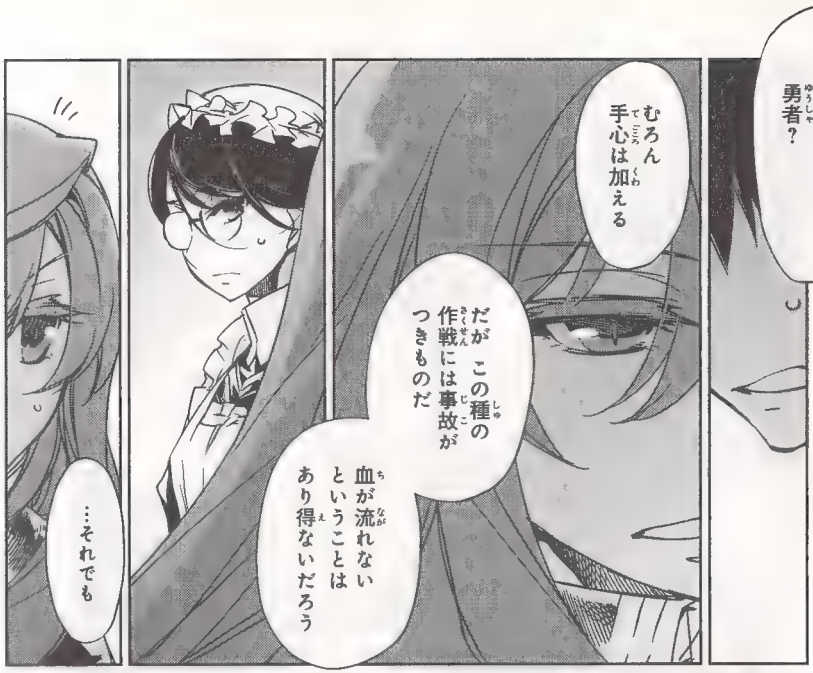

クローバーには大地の恵みを蓄える働きがあり夏場の間は豚や羊などの牧草になる
そしてカブは冬の間に家畜の飼料として役立つ
これによって冬場も家畜の数を維持することができるようになるだろう
なるほど！


つまり
この方法は
畑を痩せ
させない
畑を
休ませない
農作物以外も
豊かにする
という
3つのアイデアで
できているんだ
そこで
この村なわけか
考えたな
魔王
どういうこと
ですか？

この村みたいに
農業も畜産もやってて
ある程度自給自足の
体制がある方が
この農法には都合が
いいんだよ
小麦ばかりを
大量生産できる
温暖な地域では
意味が小さいんだ
これってつまり
『寒くて貧しい地域を救う』
アイデアだから
そういうこと
でしたか！
そのとおりだ
勇者

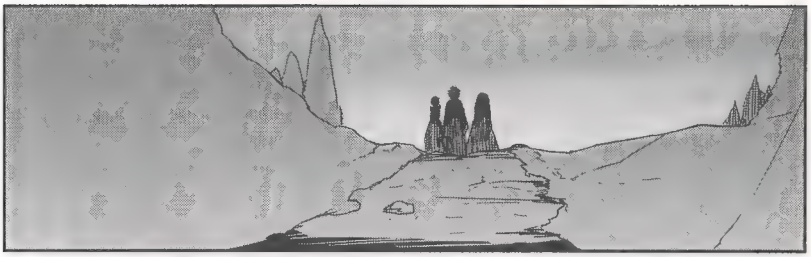

難しいのは
農地と村の統廃合だ
この種の「開墾した権利」の
縄張り争いは 利権の争いに
たやすく変化してしまうのだ
それは
予想がつくな
そこで魔物だ
ー

魔物が現われて
村を攻める
適当に脅かせば
村人は逃げ出す
だろう
その後
駆けつけた騎士団と
一戦して魔物たちを
引き上げさせれば…
戻ってきた
村人たちは領主の
庇護の下に入る
ことになる
農地の整理も
村の統廃合も
効率よく
行えるだろう


…幻滅したか
勇者？
むろん
手心は加える
だが この種の
作戦には事故が
つきものだ
血が流れない
ということは
あり得ないだろう
…それでも

それでも
救われる人は
いるんだろう？
農法の工夫がうまくいけば
毎年何万もの
飢えた子供たちが
春を迎えられるんだろう？
——そして戦争を
終わらせるための
余裕が…人間の手に
戻ってくるんだろう？
そうだ

なら 俺は やっぱり 魔王のものだ
それに なんのかんの言っても 魔王は犠牲を出さないように 頑張ってくれる だろうしな
くっ…
あ 明日はさっそく 村長に魔法の 説明に行くぞっ
まずは とにかく 食糧の自給率を 上げていこう
飢餓を撲滅するのが 何よりも重要 なんだから…



思ったより
難航しそうだな

ああ

おつかれさまです…

露骨に断ってくる
わけでもないが…

まともに相手にされて
ない感じだな

村長たちは魔王を
貴族の姫君だと
思ってるんだ

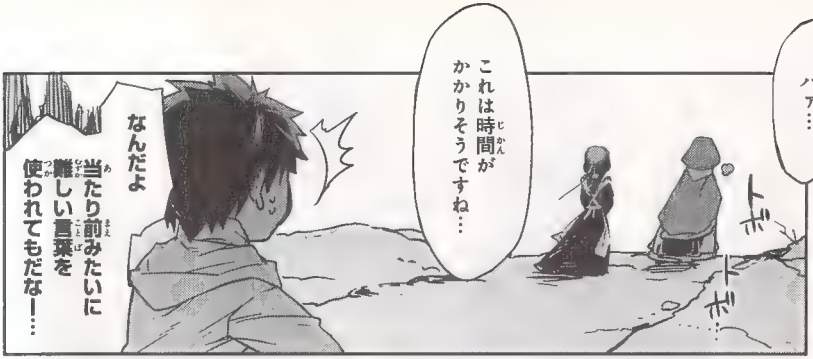
正面から反対は
できないさ

ふぅむ
こうなると…

次の段階でと
考えていたのだが

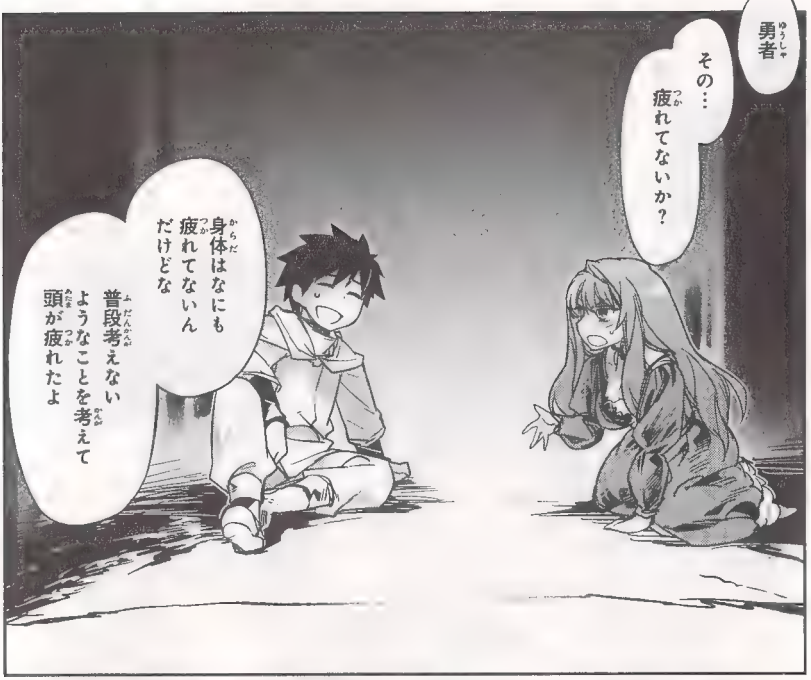
『教育』にあちこち
手を入れなければ
物事が進まないようだな

教育…
もっともですが
しかし
コストが
かかりますよ
うむ そこが
悩みどころだ
だが ここで農業改革が
うまくいったとしても
それを伝播させるには
人手が必要なのだ
どのみち
いつかは必要な
過程なのだ
時間もかかる
ことだし なるべく
早くに手をつけて
おくべきだろう
それもそうですね
なにか手を
考えましょう
まずは裕福な層から
子弟を募って
実績を積むなど…
ところで聞くが
人間界の教育は
どうなってるんだ？
そんなこと
言われてもなぁ
そもそも
教育ってなんだよ
？
？


ハア…
トボトボ…
これは時間がかかりそうですね…
なんだよ
当たり前みたいに難しい言葉を使われてもだな…

それでは私は夕食の準備を
一時間ほどかかりますので暖炉にでも当たってお待ちください
ああ頼んだぞ
……

…なぁ 勇者
うん？
その… よかったらこっちに来ないか？ 暖炉が暖かいぞ
おおう
パチッ…
ゴォォ…
ほんとだ 暖かいなー
たぎる鼻水か


勇者
その…
疲れてないか？
身体はなにも
疲れてないん
だけどな
普段考えない
ようなことを考えて
頭が疲れたよ

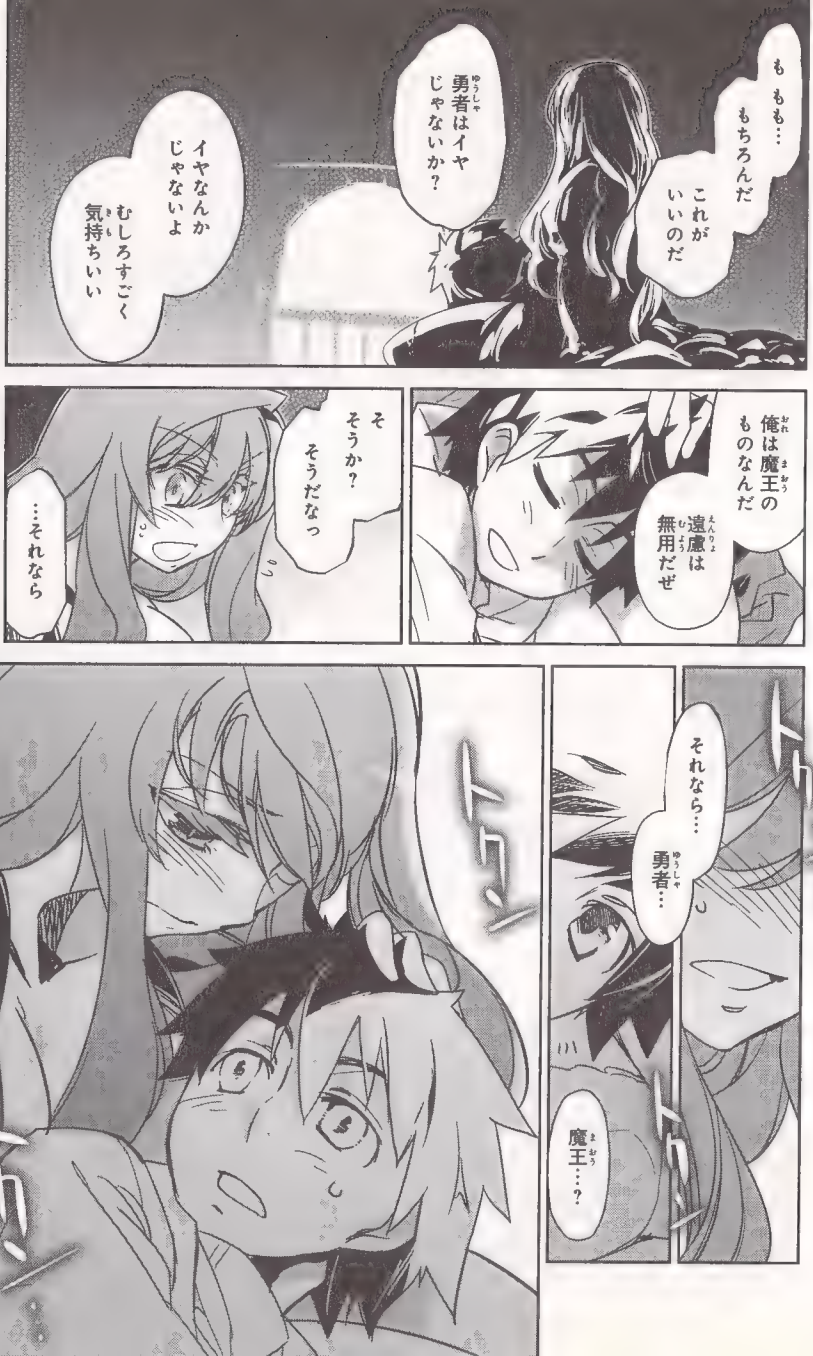
そうなのか…
うん
あの
その何だ
勇者に交渉が
あるのだが
いいだろうか
？
なんだよ
もったいぶらずに
言ってみろよ

つまり 外は寒いだろう？
そしてここは暖かくて居心地が良い
夕食までは二人はヒマでやることがない
今後やるべきことは山積みだが勇者は現在頭が疲れている
あー
もちろんこれは私が考えた草案というのも愚かな一私案に過ぎないわけだが
勇者の現在の疲労状況を鑑みるにこのような俗説や民間信仰の類も一概にその効能を否定するわけにもいかないのではないかと思えるのだ
時に戦士はそのような蜜園で疲れを癒すと古書にもある
勇者はそのような爛れた習慣はないというかもしれないが
ーーん
えーと

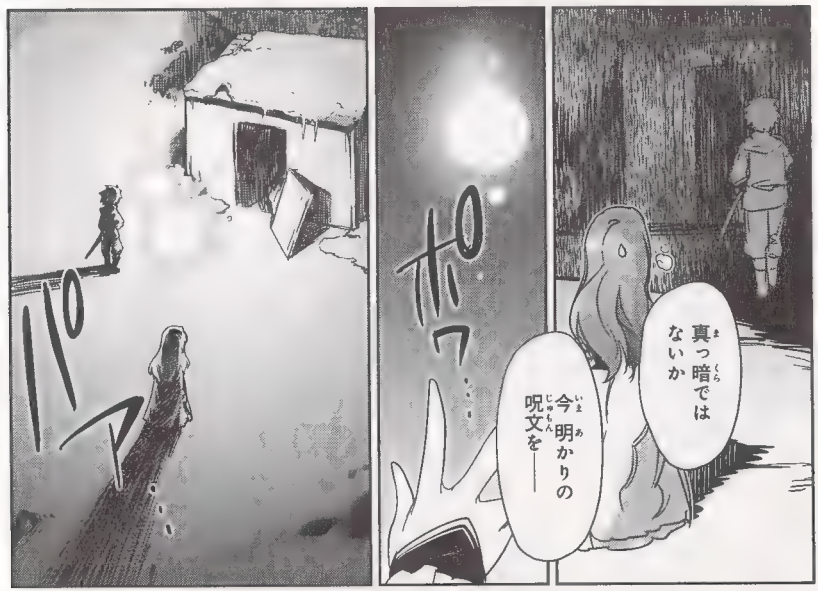
つまり
何を
どうしたいんだ？

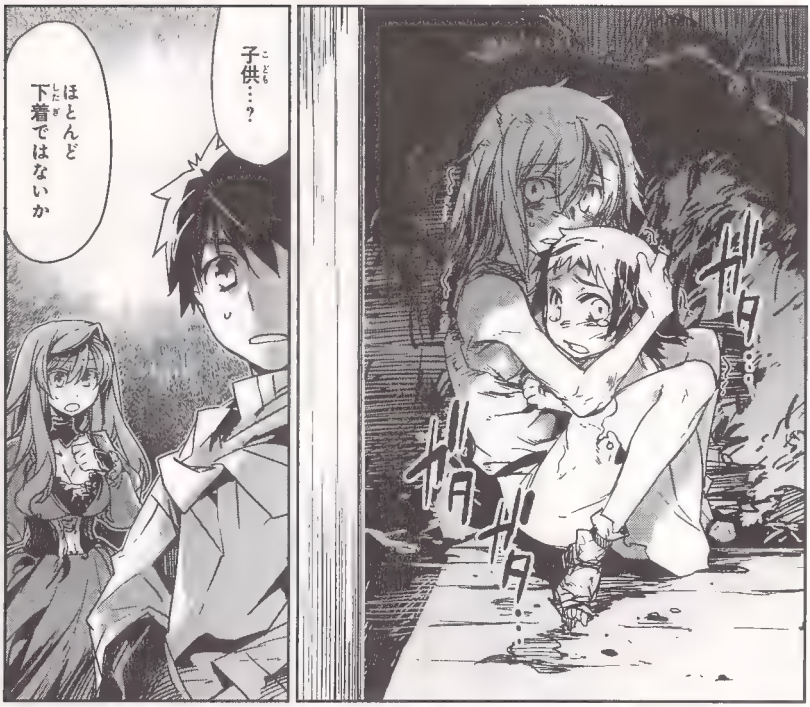
勇者に膝枕してみたい

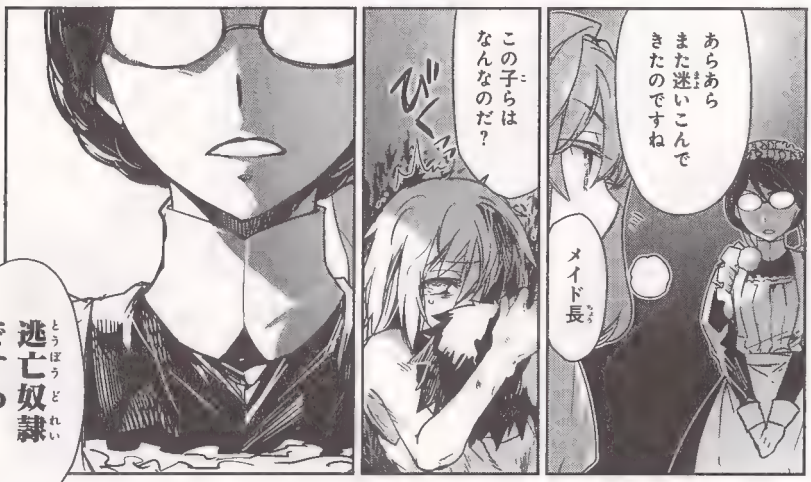
……
こんなことで
いいのか？


もももも…
もちろんだ
これがいいのだ
勇者はイヤじゃないか？
イヤなんかじゃないよ
むしろすごく気持ちいい
俺は魔王のものなんだ
遠慮は無用だぜ
そ
そうか？
そうだなっ
…それなら
それなら…
勇者…
魔王…？
トクン
トクン
トクン

何の音だ？
裏手…
納屋の方だ！
あっこら！
待てというに


真っ暗ではないか
今明かりの呪文を――

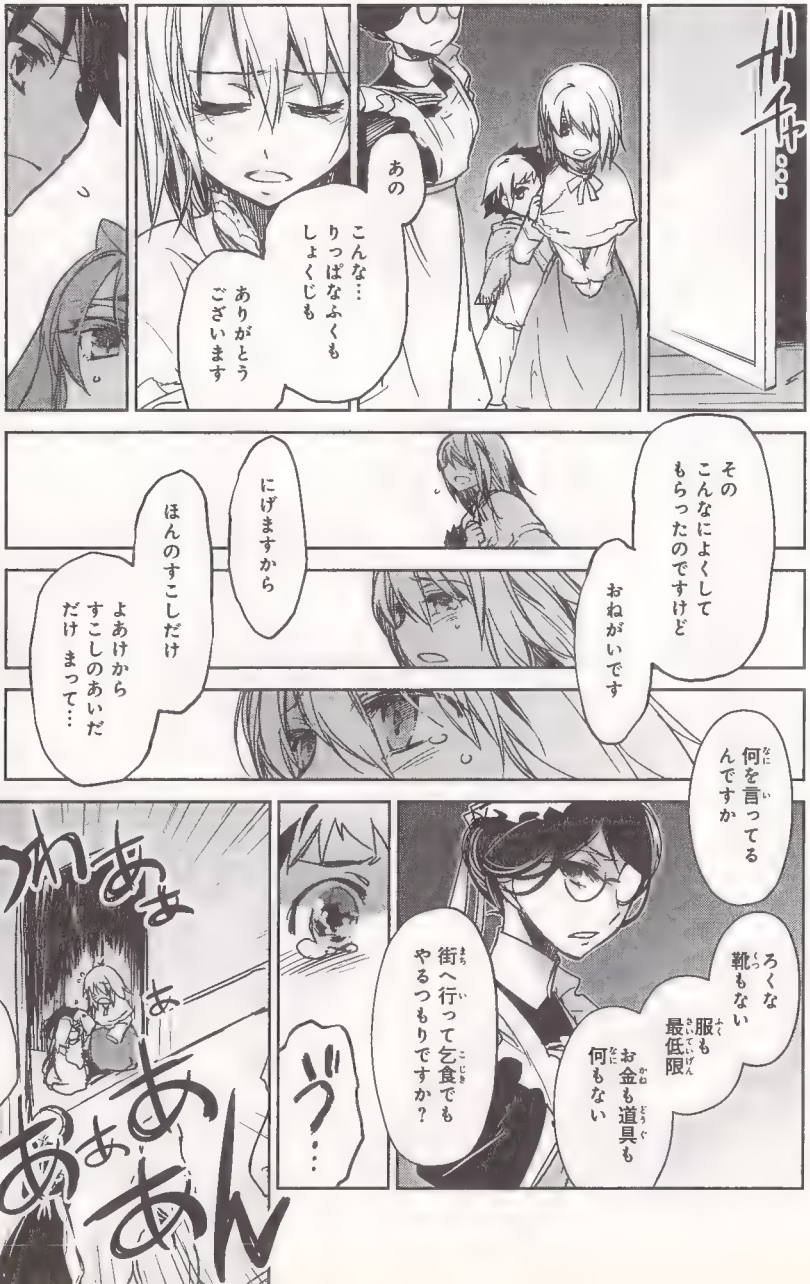

子供…？
ほとんど
下着ではないか


あらあら
また迷いこんで
きたのですね
メイド長
この子らは
なんなのだ？
びく
逃亡奴隷
ですわ

付近の村から逃げてきたのでしょうたまにあるのですよ
バカなっ
奴隷は禁止されている！
この国に奴隷なんかいないはずだ！
失礼
『農奴』…でしたね
農奴…？
農奴は奴隷と違い個人財産が認められている
家も持てるし農耕具も自前の物が持てる
家族と一緒に暮らすこともできるんだ
その一方で職業選択や移動の自由はない
地主の農地で農作業のための労働力として
選択の自由なく働かされる存在だ
あ
あのう…

あ
あさには
でていきますっ
ごめいわく……
かけませんから…っ
どうか
ひとばんだけ
今までは
どのように対処
していたのだ？
農奴の逃亡は
重罪です
すぐ通報して
引き取りに来て
もらっていました
ぎゅ…
…厳しすぎ
ないか？
自分の運命を
つかめない存在は
虫です
私は虫が
嫌いです
羽をもがれたようで
見るに耐えません

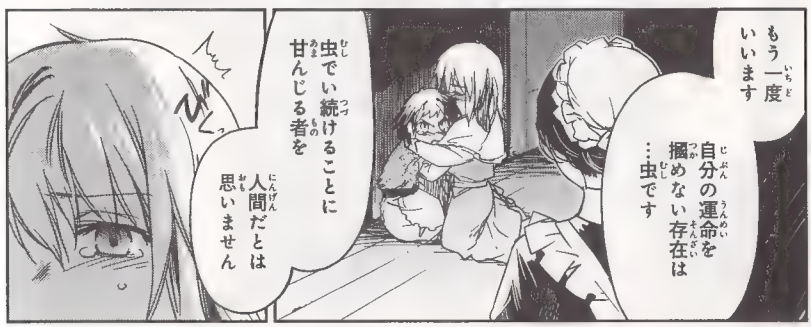
：
!!
大事の前の小事ではありませんか？
このようなことで近隣との関係を悪くされても 益無いことだと思いますが
そう…だな
魔王…
では——
連絡は明日の朝まで待つ
湯を沸かせ
もう少しましな衣服もあるだろう
反論は抜きだ
今回はそうする
もう決めた
…あー
うう
こういうのは苦手だ
俺だって


ガチャ…
あの
こんな…
りっぱなふくも
しょくじも
ありがとう
ございます
そのこんなによくしてもらったのですけどおねがいです
にげますから
ほんのすこしだけよあけからすこしのあいだだけまって…
何を言ってるんですか
ろくな靴もない服も最低限お金も道具も何もない
街へ行って乞食でもやるつもりですか？
ぅ…
うわぁぁぁぁぁん
あっ…こらっ

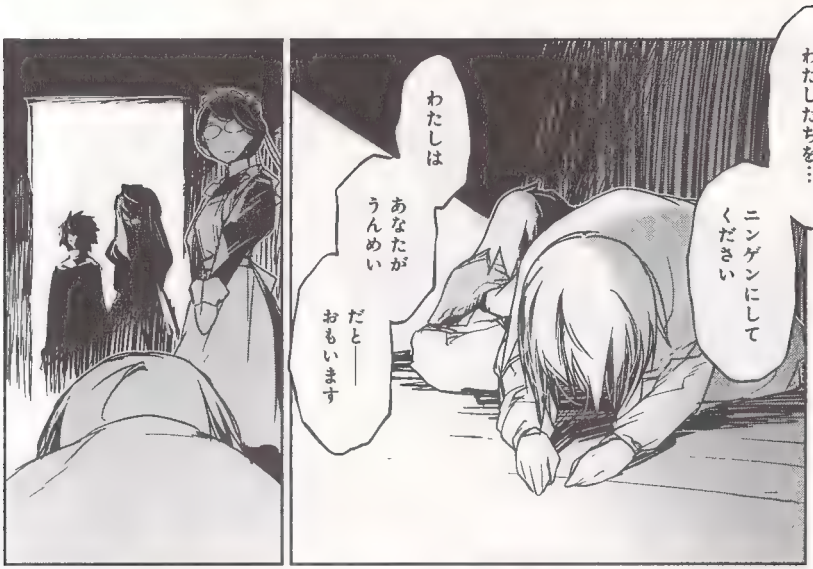
どうにか…
どうにか
なんないのか？
なりませんね
奴隷の生活は
惨めですよ
何もできない
何の希望もない
…でも
やっていることは
メイドと変わりは
ありませんよ
主人の意を受けて
主人の言葉なら
なんでも従う
主人の夢を叶えるため
そのために命を捧げる
奴隷と大した違いは
ありはしません

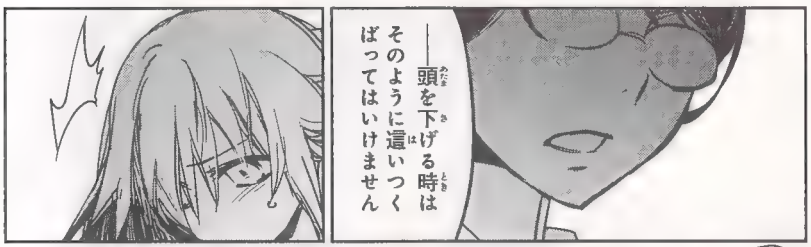
メイド長
私をお前を奴隷だなどと思ったことはありはしないぞ
ええ まおー様
私もそのような扱い
まおー様から受けた覚えはありません
でも だから より一層
見るに耐えません
私と同じ仕事をしながら
自らの手に運命を掴むことのできない
…その弱さは
ちがうよっ！
ちがうもんっ!!

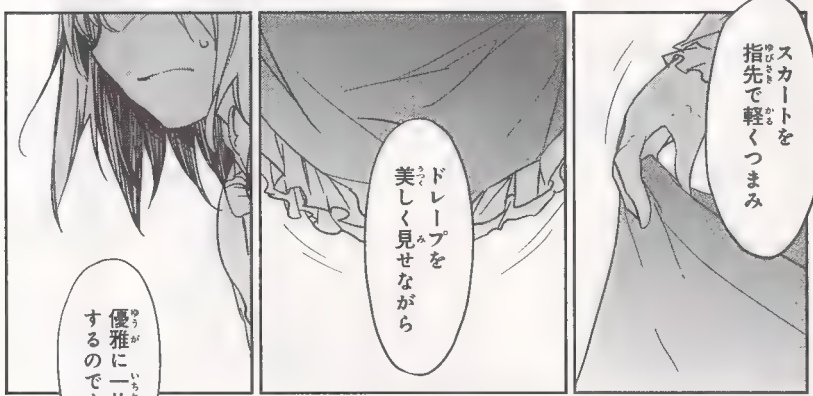
ちがうよっ
めがねのおねえちゃんは
いじわるなのっ
わたしたちはちゃんと
にげてきたもんっ
なにもできない
わけじゃないもんっ
みやこにいって
ふたりでくらすん
だもんっ
百歩譲って
その熱意を
努力と呼んでも
いいでしょう
しかし 他人の
好意にすがり
迷惑をかけ…
それが貴女たちの
やりようですか？


もう一度
いいます
自分の運命を
摑めない存在は
…虫です
虫でい続けることに
甘んじる者を
人間だとは
思いません

——謝罪を
…このやかたの
みなさま——
きぞくさまには
ごめいわくを
かけました
ごめんなさい
ひっく…
ひっく…
よろしい
ひっく…
やぁ……
もどるの
やだよぅ……
こわいよぉ
ひっく
ひっく
…しずかにして
……それだけ
ですか？
…わたしたちを


わたしたちを…
ニンゲンにしてください
わたしは
あなたがうんめい
だと——
おもいます


——頭を下げる時はそのように這いつくばってはいけません


スカートを指先で軽くつまみ
ドレープを美しく見せながら
優雅に一礼するのです

……まおー様
この館は魔王城に比べればほったて小屋も同然ですが私ひとりではいささか手が足りません
メイドを雇ってもよろしいでしょうか？
いいのかっ？メイド長
あんなに嫌いだって言ってたのに…
嫌いなのは虫です
メイドを嫌う人はこの世に存在しません
たとえ そのメイドが新人であってもです

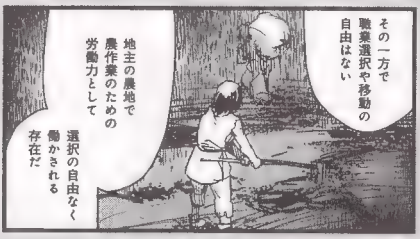
よろしいですか？
…まおー様
許す
この娘らを
鍛えてやってくれ
パチッ…
ぎゅ…
いくわよ
うん

終 第二話
わたしをニンゲンにしてください

第二回

階層社会での身分について

支配者層と被支配者層をわける
中世の“階層社会”と、
メイド姉妹が属していた
“農奴”という存在。



支配者階級の優雅な生活を支えているのは
農奴をはじめとする大勢の民衆だ。

身分制度が誕生する経緯

歴史において階層社会が生まれたのは、人類が集団生活をするようになってからだ。当初は、経験と知識が豊富な老人を長老に据える程度だったが、集団同士の衝突が起きるようになると、より力のある人物を指導者と仰ぐようになった。こうした指導者たちは、集団の統率や外敵から人々を守る責務を負うかわりに生産活動から離れ、やがて所属グループの縄張りを所領とする領主へと変わっていった。

この過程で、一般民衆にも身分差が生まれた。自前で武具を整え防衛行動に参加できるかどうかが重要視され、敵と戦うリスクを負う者たちが、より高い地位におかれるようになったのだ。さらに戦争で捕らえた敵を奴隷として使役する風習も生まれ、民衆の身分差は幅が広がっていったのである。

やがて人類が国を形成するようになると、より強力な指導者として王が誕生した。王を頂点として人々の組織化が進んだ結果、王が派遣する行政官が地方の領主を監督し、さらに領主は地元の民衆を監督するという支配体制が確立。支配階級によって人々の身分が固定化されていき、「階層社会」が誕生したのだ。

地域によって違いはあるが、基本的には階層社会のなかで領主以上の立場にある者が、貴族と呼ばれる存在である。

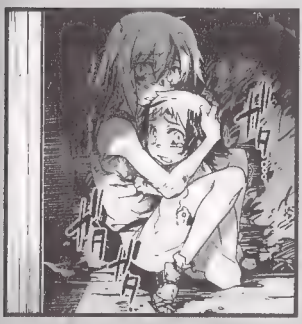
領主の土地を耕す労働力だった農奴

貴族をはじめとする地主たちは土地を所有してはいるが、自分では土地を耕さない。そこで生まれたのが農奴制である。

農奴は地主の耕作地専属の労働力で、地主の所有物とみなされていた。彼らは耕作地とセットで扱われ、土地が売却された場合は農奴も売られていたのである。

よって、住居や耕作道具の所有、家族をもつことは許されていたが、移動に関する自由は認められず、脱走すれば厳しい処分が下される。当然、すべての生産物は徴収されるので自立も望めない、いわば家畜同然といえる身分であった。

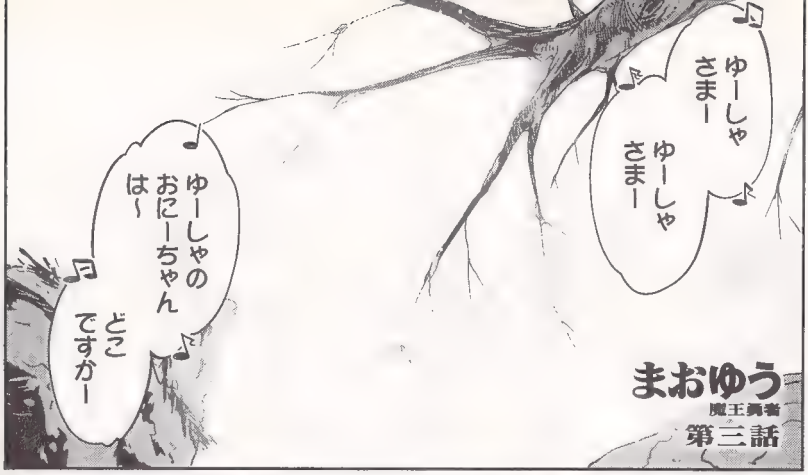
魔王の屋敷に逃げ込んだ姉妹が「人間にしてほしい」と懇願した背景には、農奴を取り巻く過酷な現実があったのだ。



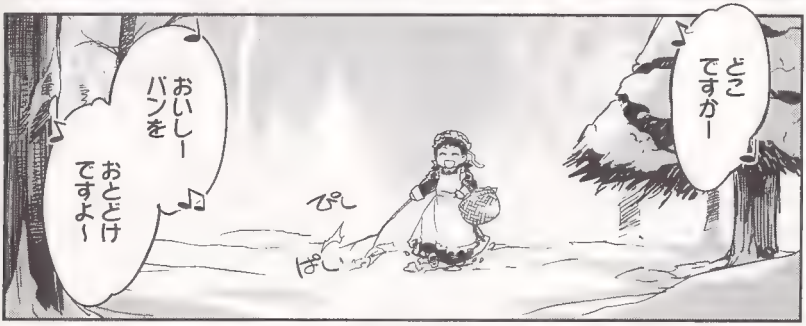
なかには逃亡をはかる農奴もいたが、
結局は連れ戻されるケースが多かった。

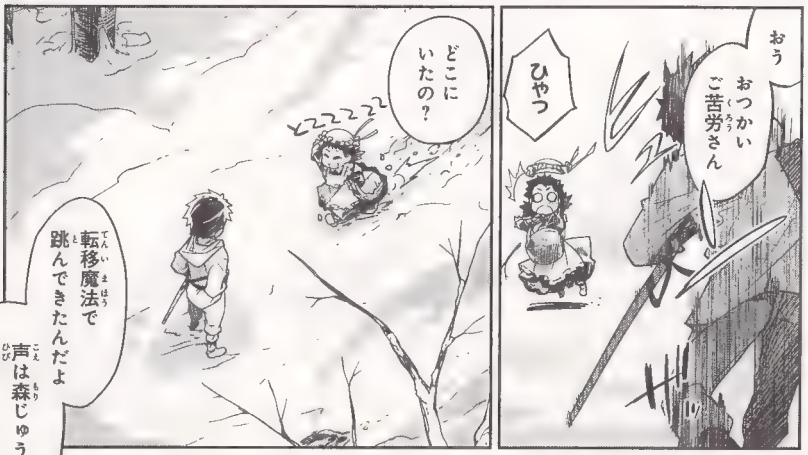
初メイド服といえば

◀◀◀ *Continue to the next chapter*



まおゆう
魔王勇者
第三話

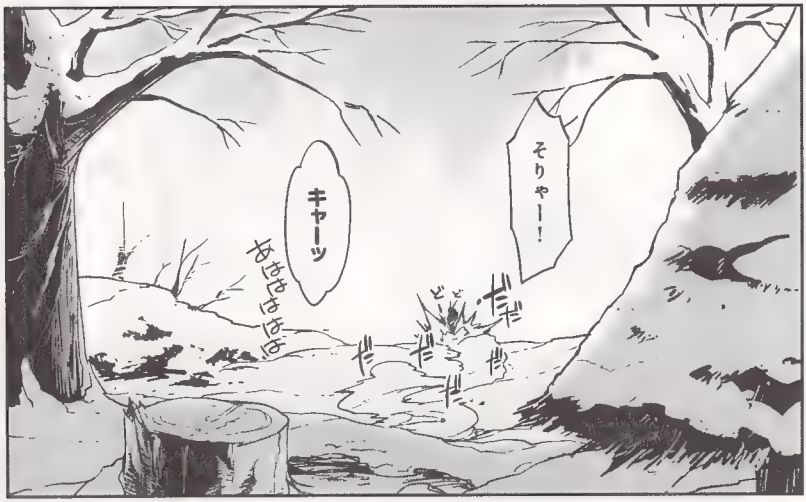




じゃ〜ん！
きょうのおひるは
クルミのパンと
タマネギとベーコンの
オムレツですー
おお
うまそうだな
おねーちゃんが
つくりましたっ
感心 感心
順調に仕事
覚えてるな
いただき
まー！…
ゆーしゃの
おにーちゃんは
もりでおしごと？
ああ
朝から
イノシシ二頭と
熊を一頭だ
このへんの森も
だいぶ安全に
なってきたかな

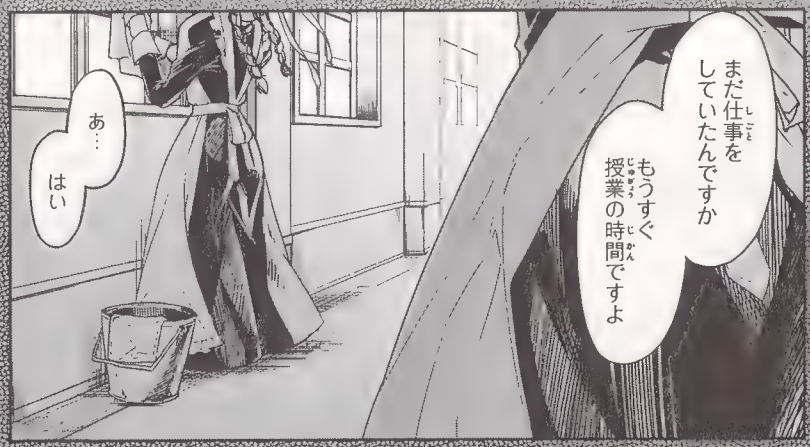
イノシシ？
なべ！
いのなべ！
猪鍋か
あれは美味いな
メイド妹
メイド妹は食い気ばっかりだな
ごはんいっぱいはとても幸せだよ
まいにち
あったかい
おふとん
ほかほか
ふくが
きれい
おねーちゃんと
ずっといっしょ
それは
幸せ
……
どうしたの？
勇者って 役に
立たないなと
思って
こうなって
みるとつくづく
思い知るよ

口先ばっかり
平和とか
言ってたけど
平和ってどういう
モノなのか
どうすれば
平和になるのか
平和になったら
どうすれば
いいのか なんて
ちっとも
考えてなかったよ
ポリ…
むずかしーね
ガくー
難しいな
あ そうだ
ごごは けんの
じゅぎょうだって
おっと
今日だったか
わっ
そんじゃ
急いで
戻らないとな
うん！



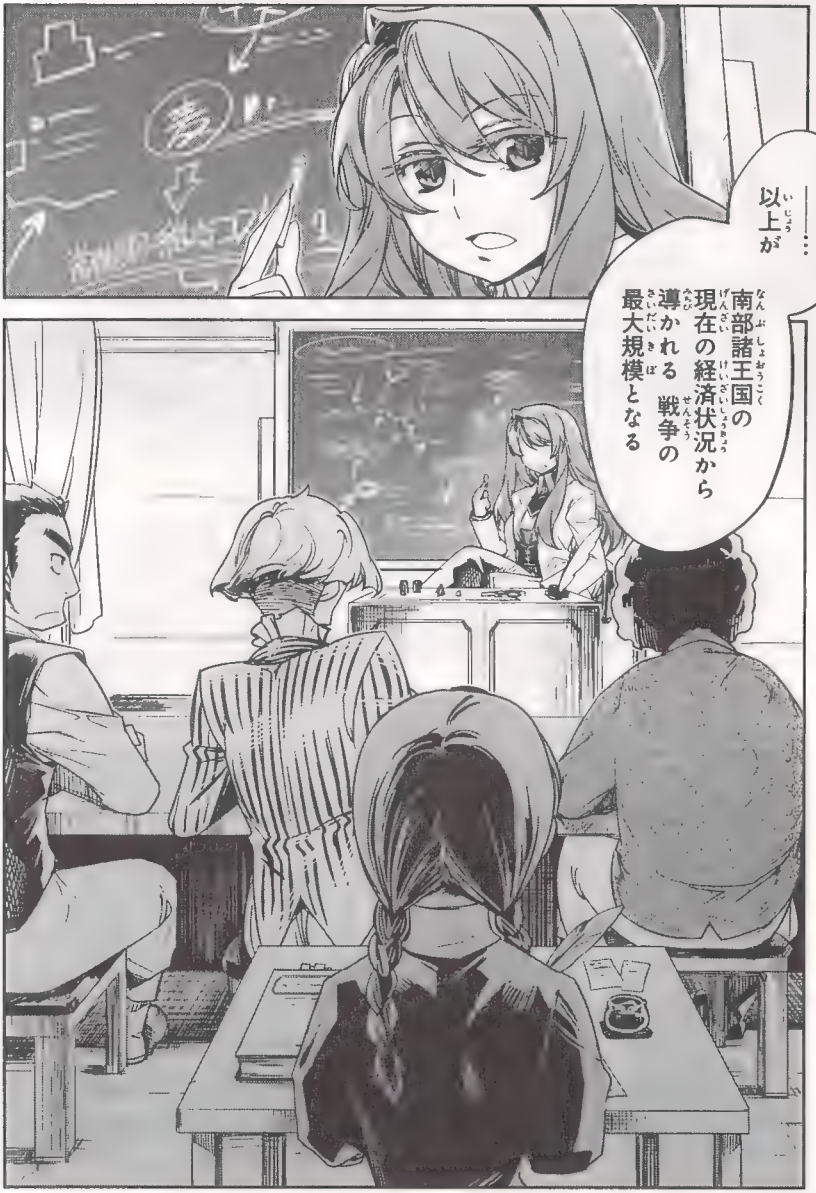
第三話 Archenemy and Hero 3rd chapter

ごはんいっぱいは、とても幸せ

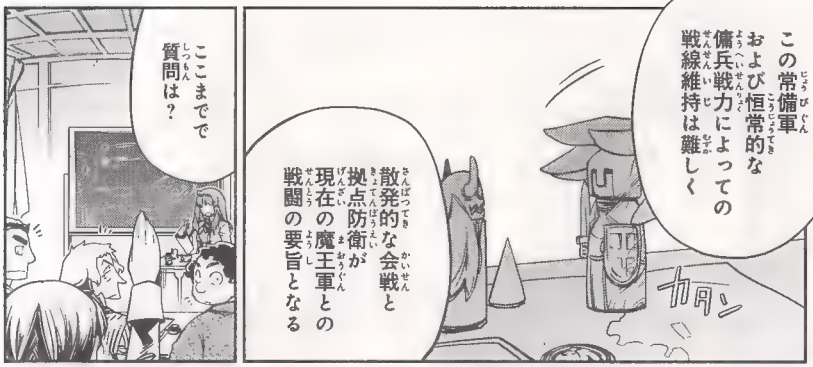


すみません
今終わります
メイド姉
授業があるのは前もってわかっていたことです
時間に遅れないよう仕事を進めなさい
はい
気をつけます
終わりました
点検をお願いします
…よろしい
…仕事と勉強の両立は難しいですか？

…いえ
大丈夫です
どうかこのまま
お願いします
…いいでしょう


……
以上が
南部諸王国の
現在の経済状況から
導かれる 戦争の
最大規模となる

軍人子弟
貴族子弟
商人子弟
んーと
最後の一兵まで戦い抜くでござる！
私は専門ではないが…
古来軍隊が壊滅するとされている損耗率は…
おおよそ30％と言われている
3割だな


ゆえに
この常備軍
および恒常的な
傭兵戦力によっての
戦線維持は難しく
カタン
散発的な会戦と
拠点防衛が
現在の魔王軍との
戦闘の要旨となる
ここまでで
質問は？

聖鍵遠征軍は
どうでしょう？
うむ
あれは
例外だな
30%
聖鍵遠征軍に
ついて知っている
ところを述べよ
えーと
そこの
貴族子弟
あ
はい

聖鍵遠征軍は
中央大陸の
危機会議によって
結成された――
聖なる
遠征軍ですね

目的は邪悪なる
魔族を殲滅し
この戦争を
終結させること

この15年の間に
2回行われました

南の極大陸にある
「ゲート」から
魔界へと侵攻して

魔族の重要都市
2つを破壊

魔王の都まで
迫りましたが…

魔界

開門都市

ゲート

魔王の卑劣な補給線
破壊行為により
撤退を
余儀なくされました

精霊のご加護
むなしく

おお
ほぼ
満点だな

お――…

――このような
遠征軍は巨大な
兵力を背景にして
行われる

必要なのは
2つ

ひとつは
世界規模での
戦争終結への
熱意だ

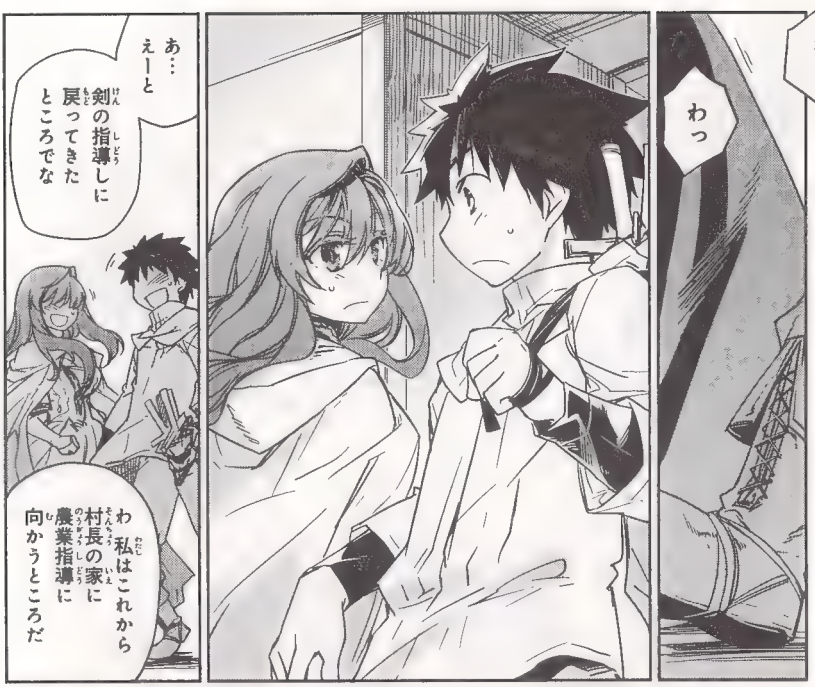
ゴト。

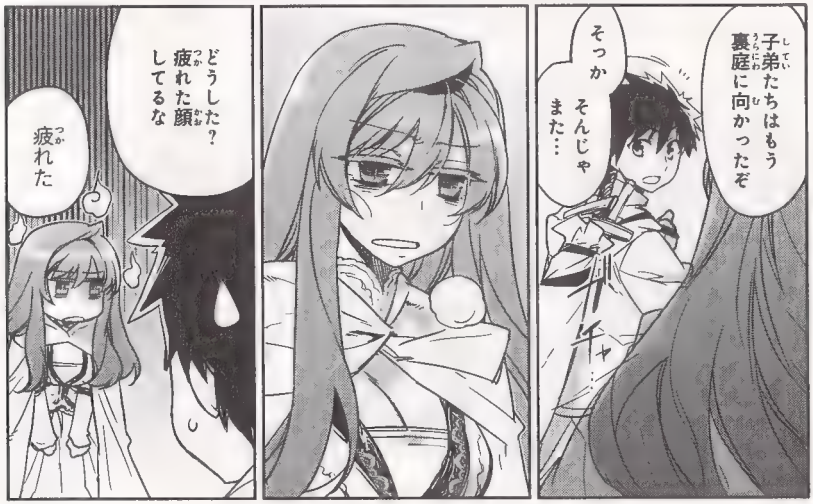
ただ一度の大遠征で終戦が
成し遂げられるのならば
犠牲を払う価値があると
世界中の人間が望んでこそ

その戦いに
身を投じる者が
生まれるわけだな

もうひとつは経済的バックアップだ
経済の支援なくして社会も戦争行為も成り立たない
じゃらら
人間は食べなければ飢えて死ぬ生き物なのだ
先生
算盤をはじいて戦など出来ないでござる
ガーン
時には金や食料よりも重要なことがある
…そうでしょうか
飢えだなんて根性が足りないだけでござる
そもそも領主が保護している人民に飢えなどは存在しないじゃないですか
…飢えたことがないんですね
ちりーん
ちりーん…

お嬢様
授業終了のお時間です
もうそんな時間か
明日は南氷海の軍事情勢について触れることにする
今日の授業はこれまで
午後には剣士様が剣の手ほどきにいらっしゃるぞ
待っておったでござる
今日はあたりだな
さあ私たちは仕事に戻るわよ
うん！
おねーちゃんきょうはいのなべにしよ！
そうねあとでメイド長様に相談してみましょう


おっ
わっ
あ…
えーと
剣の指導しに
戻ってきた
ところでな
わ 私はこれから
村長の家に
農業指導に
向かうところだ


子弟たちはもう
裏庭に向かったぞ
そっか
そんじゃ
また…
どうした？
疲れた顔
してるな
疲れた

なぜ私は教育などと甘い出したんだろう
人間の子供の相手をするのがあんなにも疲れるとは思わなかった
あれではまるで動物ではないか
理非も交渉も通じない
あー…
なぜ あの者たちはあんなにもプライドが高いのだ
貴族や富裕層だからな！…
いっそカエルに変えてしまうか
ゴゴゴ
おいおい
やめておけ
ちっ
それじゃそっちも頑張れよ
あ 勇者…
なんだ？
私は疲れている
つまりその…
元気がないのだ

元気を…
くれないか
お
おう
ドキ
ドキ
?
ポワ…
ワワワワワ
は…
なんだ これは
なんだって…
回復魔法だよ
ちょっとは
元気になったか

はむ
ギュー
よしっ
元気をもらったぞ！
行ってくる！
タタタタタタ
うっし
こっちもやるか！
おー!!

キン!!!
でいっ
とぉっ
ひょい

ま…まいったでござる
おー

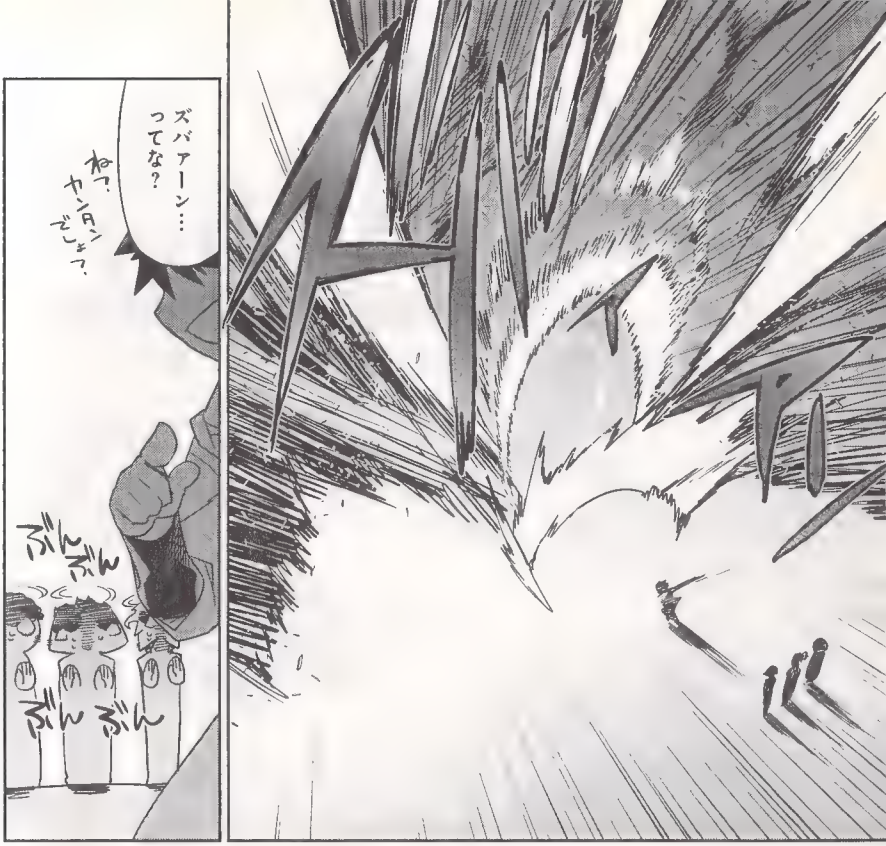
拙者の剣はどうでござろうかっ
うーんそうだなー

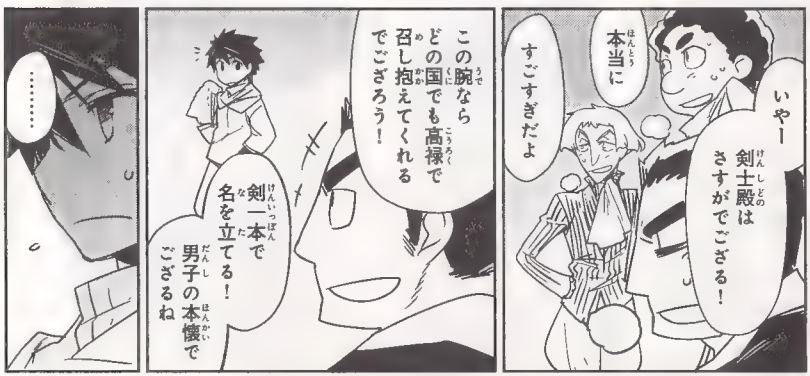
今はほらグワーってばっかりじゃん
もっとこうビュツとかシャーツってやった方がいいんじゃないかな
こんにちは
ん？
？？？

剣士殿もっとわかりやすく…
そう！必殺技とか教えてくれませんか
ナイス！

わかりやすい必殺技かー…
ん

こんなとかどーかな
こう…腰だめに剣を構えて
ぐぐ…
腹のあたりに力を溜める感じでグッグッと——

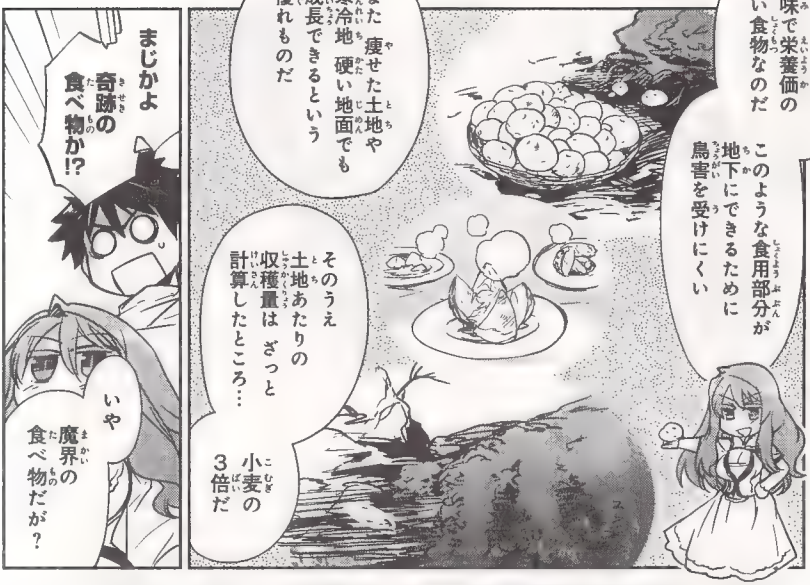

ズバアーン…
ってな？
ねっ、カンタンでしょっ。
ぶんぶんぶんぶんぶん

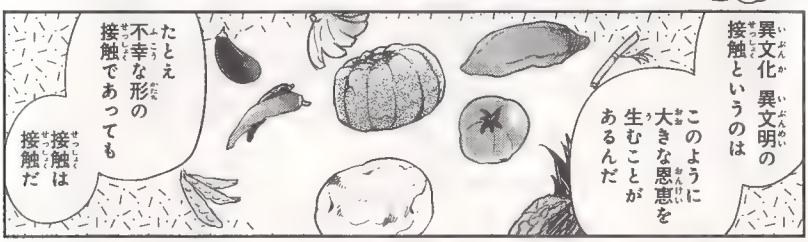

いやー
剣士殿は
さすがでござる！
本当に
すごすぎだよ
この腕なら
どの国でも高禄で
召し抱えてくれる
でござろう！
剣一本で
名を立てる！
男子の本懐で
ござるね
……

剣じゃ敵は倒せても
妻は育てられない
病気の子どもを助けることもできない
剣士殿まで学士様みたいなことを言うとは思わなかったね
はは…
あはは…
魔…
学士は
俺なんかよりずっとすごいんだ
あいつがやろうとしていることは
あいつが教えていることは
俺の剣なんかじゃ全然かなわない
「何か」なんだ
俺は…
自分に何ができるのかもまだわからないよ
剣士殿…？

悲しいほどに
権威がものを
言うのだな
貴族の子弟を
受け入れて
箔がついたら
村人も急に
協力的になった
ピキ…
新しい農法も
この春から
それなりの規模で
実験開始だそうだ
南部諸王国は
それでも貴族と
民の距離が近い
って言われてるよ
中央に比べれば
身分の差なんて
あってないようなもんだ
ピキ…
…ところでさ
なんで
こんな体勢？
いいではないか！
こんな時間まで
村長たち相手に
農法の講義をして
寒いなか帰って
きたのだ
これくらいの
役得はあって
しかるべきだ！

でもこれで
やっと一歩か
結果が出るまで
何年かかるんだ
いや
来年からでも
結果を出す
秘密兵器を
手に入れたからな
これだ
なんだ その
固まりは？
これは
馬鈴薯という
作物だ
これは
植物なんだ
掘り出して
いるから
こんな感じだが
この丸い部分は
土中にできる
ふうん
反応
薄いな
だが驚くのは
ここからだぞ


これはなかなか
美味で栄養価の
高い食物なのだ
このような食用部分が
地下にできるために
鳥害を受けにくい
また 痩せた土地や
寒冷地 硬い地面でも
成長できるという
優れものだ
そのうえ
土地あたりの
収穫量は ざっと
計算したところ…
小麦の
3倍だ
まじかよ
奇跡の
食べ物か!?
いや
魔界の
食べ物だが？

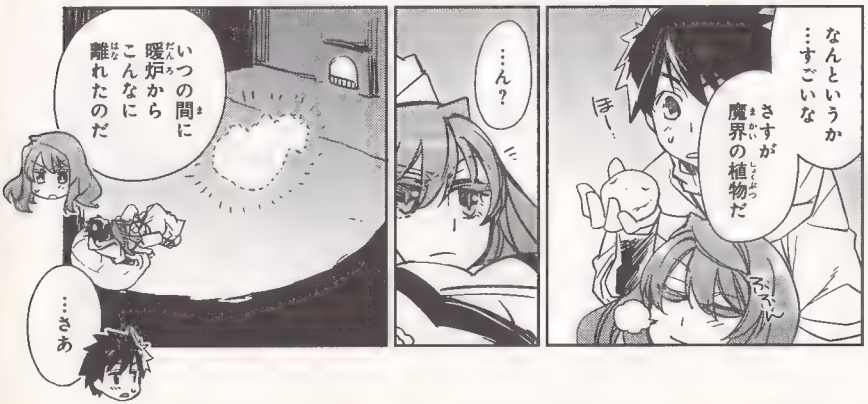

異文化 異文明の
接触というのは
このように
大きな恩恵を
生むことが
あるんだ
たとえ
不幸な形の
接触であっても
接触は
接触だ

複雑だなぁ
もっとも この
馬鈴薯にだって
弱点がない
わけじゃない
まず
毒性がある
!?
ダメじゃん!

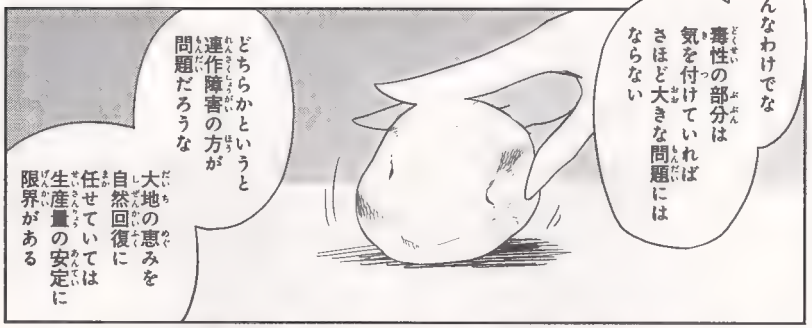
また
連作障害がある

強い毒ではないし
毒性が発生するのは
日光に当たって
発芽しかけたものだけだ
収穫や保存においてきちんと管理すれば問題ない
むしろ冷暗所で保存すれば一年程度はもつはずだ
ジャガイモの芽と青い皮はちゃんとそいで食べましょう！

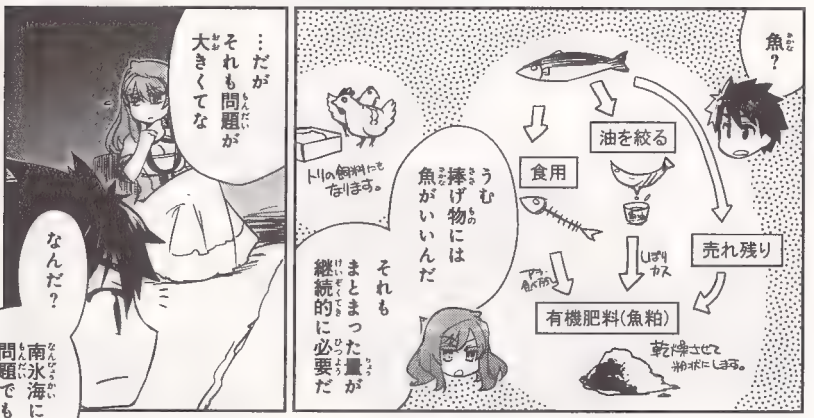
この馬鈴薯は条件さえ合えば年に3回程度収穫できるのだが
その分 土中の栄養素…いわゆる「大地の恵み」を多く消費してしまうんだ
必要な種類の恵みだけ使ってしまうから
同じ場所でつくり続けると出来が悪くなって病気にもかかりやすくなる


なんというか…すごいな
さすが魔界の植物だ
ほー
…ん？
いつの間に暖炉からこんなに離れたのだ
…さあ

魔王が押したんじゃね？
いや勇者が後ずさりしているのだ
私の身体は気持ち悪いか？ やっぱり駄肉か!?
そういうわけじゃ…
って こっち向くなー!!
失礼します
お茶をお持ちしました
チャッ
というわけで
この食物は寒冷地の飢饉対策に役立つはずだ！
なるほどな！ すごいなー！


そんなわけでな
毒性の部分は
気を付けていれば
さほど大きな問題には
ならない
どちらかというと
連作障害の方が
問題だろうな
大地の恵みを
自然回復に
任せていては
生産量の安定に
限界がある

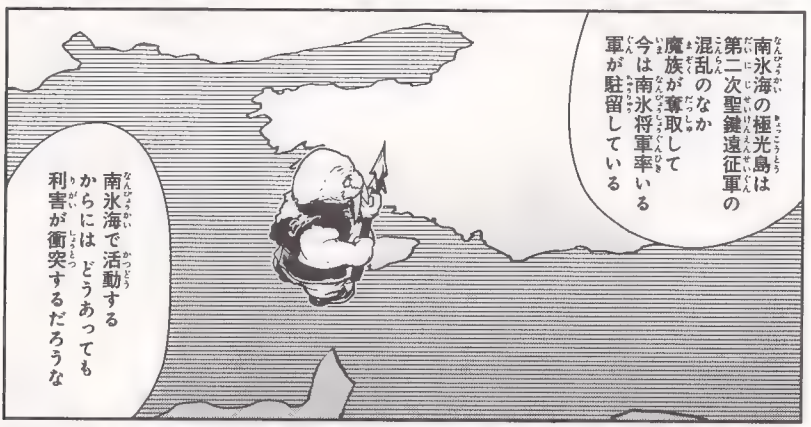
大地の精霊に
お祈りでも
するのか？
そうだな
祈祷の一種だ
捧げ物をする
具体的には
焼いた食物や
動物の遺骸
家畜の糞尿や
食べカスなどだ
それも捧げものか…？
期待して
いるのは
南氷海の
魚なんだが

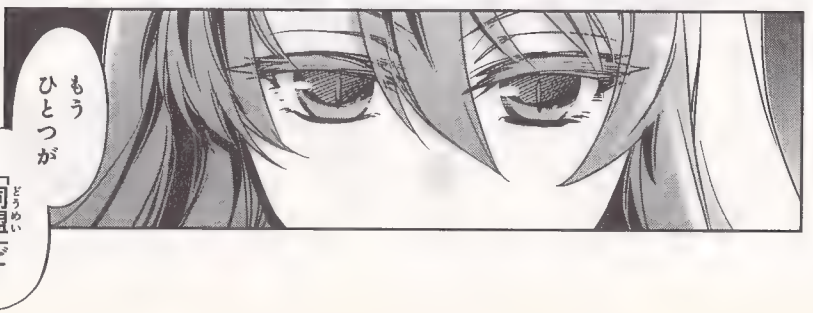

魚？
油を絞る
食用
売れ残り
しぼりカス
有機肥料(魚粕)
乾燥させて粉末にします。
うむ
捧げ物には
魚がいいんだ
それも
まとまった量が
継続的に必要だ
トリの飼料にもなります。
…だが
それも問題が
大きくてな
なんだ？
南氷海に
問題でも
あるのか？

ひとつは…
勇者も
知ってると
思うが
南氷将軍だ
南氷将軍
…あの
親父か

好戦的な者が多い
獣牙族の中でも
強硬派だ
魔王の私が
伏せっている
ということに
している
この時期でも
略奪行為を
続けていると
聞いている
銀鱗族 飛鮫族
鉄亀族を率いる
魔族の中でも
指折りの
実力者だ

何度か
やりあった
ことがある
ばかでかい
図体で
すげー
銛さばき
だった
私は表向き
療養中ということに
なっているから
命令も出しにくい
まぁ
言っても聞く
御仁では
ないのだが…


南氷海の極光島は
第二次聖鑽遠征軍の
混乱のなか
魔族が奪取して
今は南氷将軍率いる
軍が駐留している
南氷海で活動する
からには どうあっても
利害が衝突するだろうな


もう
ひとつが
「同盟」だ

聞いた覚えがあるな…商人の寄り合いだっけ？

なんで商人が問題になるんだ？

公益特権…商売する権利を持ち合い守って大陸中の経済に関わっているんだ

大きな物流や商売を見越すとやはり接触は避けられない

商人の組織相手にずいぶん大仰な話だな

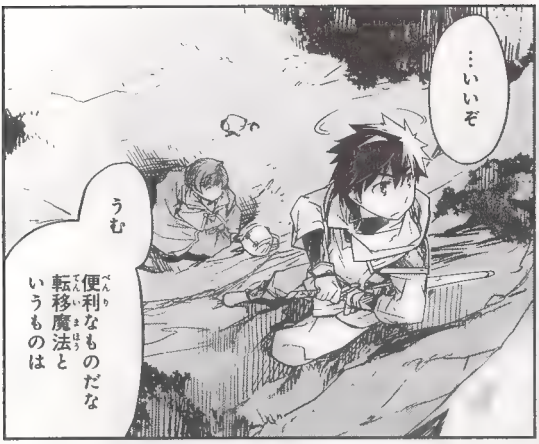
組織の規模が問題なんだ影響はこの中央大陸全土に及ぶ

その総資産は天文学的…少なく見積もっても南部諸王国全部を5回売り買いしてもおつりが来ることは確かだ

下手な接触をすれば戦争すら起こるだろう

なんだ そりゃ
化け物かよ
まごうこと
なき化け物だ
人間の生活は
化け物の背に乗って
行われている
いずれ…接触は
避けられない…とは
いえ…
慎重に…

湖の国
首都郊外
ヒュン

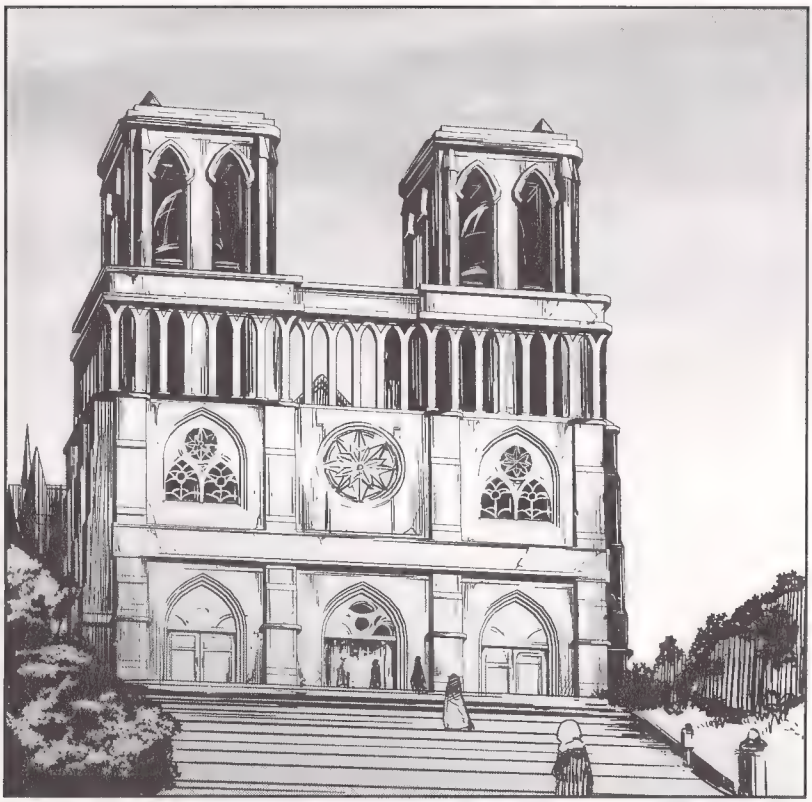

…いいぞ
うむ
便利なものだな
転移魔法と
いうものは

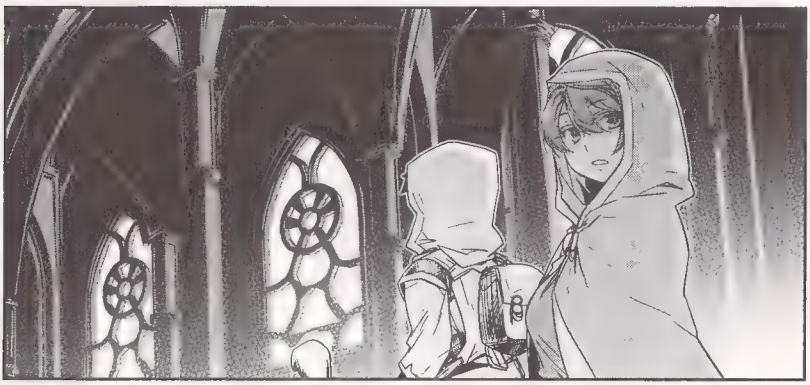
目的地は
すぐそこだ
念のため
顔は隠してな
心得た

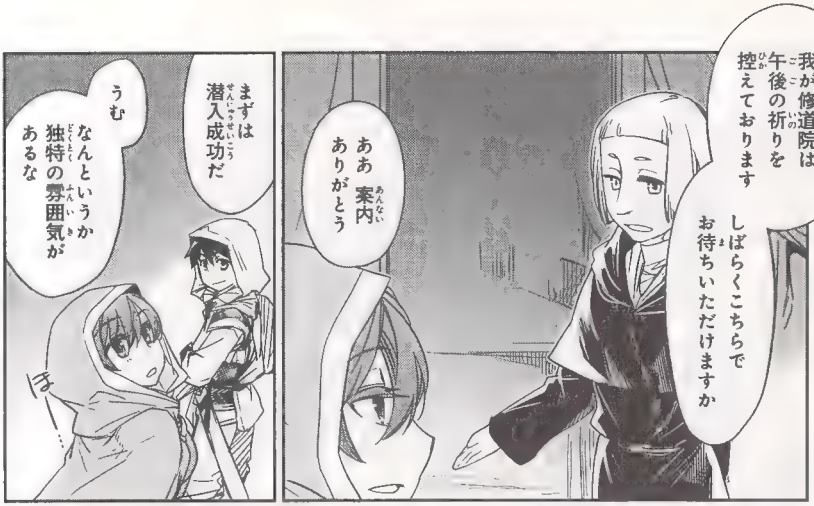
淑女の服に
比べれば
変装の方が
ずっと
着心地が
いいぞ
あれはあれで
いい物なんだがなぁ

見えたぞ
あの
建物が
このあたりの
修道会を束ねる
修道院だ

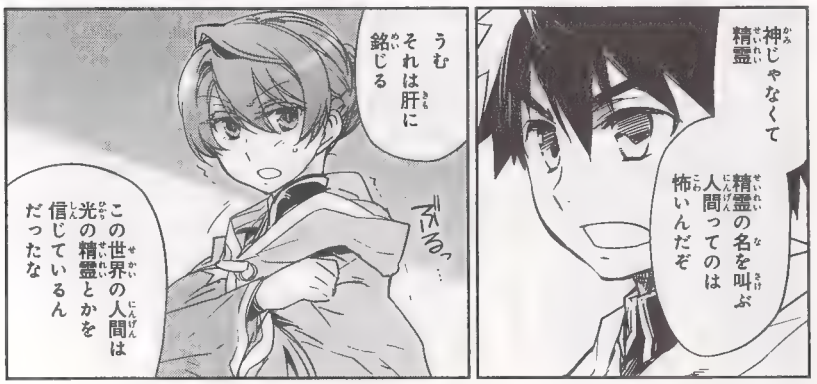
おお…






我が修道院は
午後の祈りを
控えております
しばらくこちらで
お待ちいただけますか
ああ 案内
ありがとう
まずは
潜入成功だ
うむ
なんというか
独特の雰囲気が
あるな
ほー…

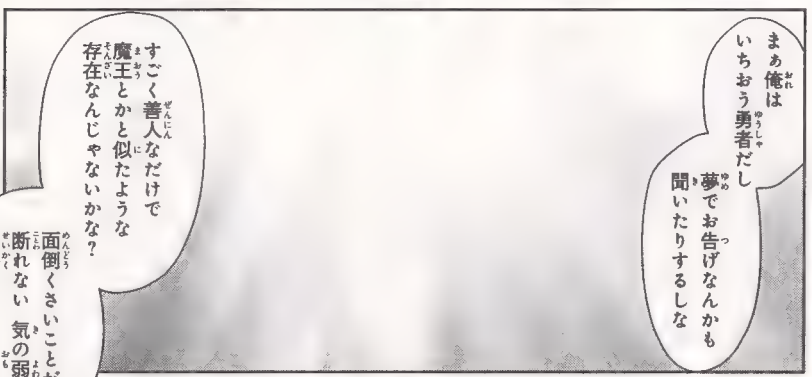
宗教ばかりは
私には
理解しにくいな
俺だって
説明しにくいよ
でもまぁ…
用心するに越した
ことはない
特に
お前は魔王
なんだからな
はは
神など恐れた
ことはない！


神じゃなくて
精霊
精霊の名を叫ぶ
人間ってのは
怖いんだぞ
うむ
それは肝に
銘じる
ざわっ…
この世界の人間は
光の精霊とかを
信じているん
だったな

ああ
中央大陸の
主だった国はすべて
光の精霊信仰だ
とはいっても
「教会」は大所帯だから
内部ではいろんな
派閥があるんだ
今はその派閥が
「修道会」という形で
表に出てきている
この修道院の
「湖畔修道会」も
そのひとつだな

勇者は
どうなんだ？
俺？
俺は
信じるって
いうか…

戦場に身をおいて
特に魔物なんかと
戦ってると
精霊様ってのは
身近に感じるんだ
信仰心っていうより
友達感覚の
付き合いだな


まぁ俺は
いちおう勇者だし
夢でお告げなんかも
聞いたりするしな
すごく善人なだけで
魔王とかと似たような
存在なんじゃないかな？
面倒くさいことが
断れない 気の弱い
性格なんだと思うよ

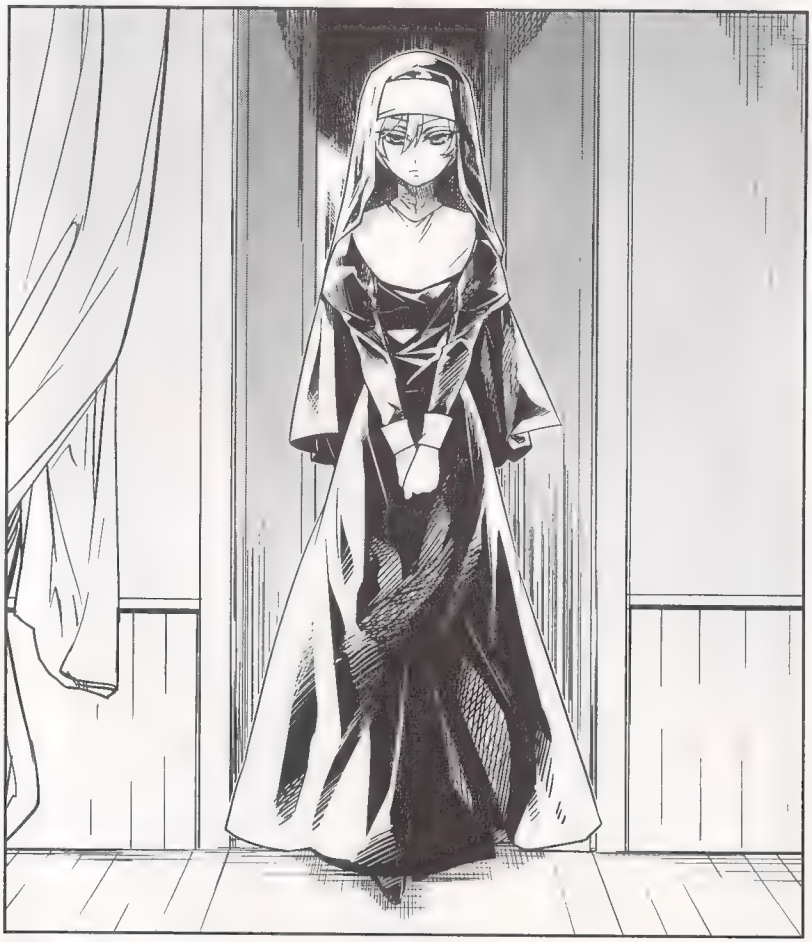
なんと…
神は実在したのか
神じゃなくて
光の精霊な
信仰以外の
ところでも
「教会」ってのは
社会の中で
大きな意味を
持ってる
人数だけでいえば
「同盟」なんか
比べものにならないほど
でかい組織だしな
研究や
学術の面
でも…
か
ああ
この世界の
そういった知識は
ほとんど教会の
権力の下にある…
と言っても
いいんじゃ
ないかな
都市部の人たちは
教会のミサで
お話や読み書きを
教えてもらうんだ
いわゆる
教育って
やつだな
なるほど
その組織力に
期待しているんだ
そういうことなら
ここの修道会は
うってつけだぞ
この湖畔修道会は
修道会のなかでも
実利的かつ穏健でな
ほほう

農民の生活援護みたいなことを主な活動にしているんだ
労働力の提供とかブドウ栽培の指導とか戸籍の補完とか
そうそう病院もやってるよ
病院もか！
つーか病院ってのは教会の仕事だろう？
なんでさ

勇者は詳しいな
昔の知り合いに聞いた受け売りなだけだよ——

魔王は…
なんだかな
その…
時々すごく
寂しそうな
顔をするよな
今みたいな
時――
そうか？
そんな自覚は
ないんだがな
なぁ
魔王
魔王には
どういうふうに
物事が見えて――

——勇者…？
ガキャ…

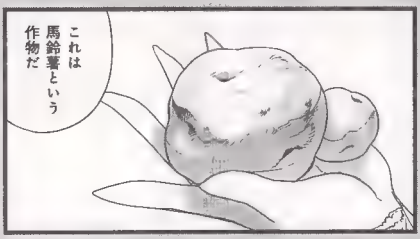


終 第三話
ごはんいっぱいは、とても幸せ

第三回

飢饉に強い悪魔の植物

飢餓への切り札として登場する魔界の植物「馬鈴薯」は、現実でも多くの人々を救った優秀な作物である。



実際に経済学者のアダム・スミスから「収穫量が小麦の3倍」と評価された。

現実世界でも多くの人々を救ってきた「馬鈴薯」

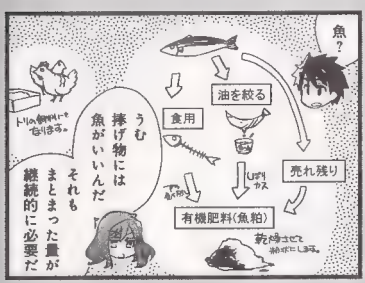
「馬鈴薯」とはジャガイモのことで、外見が馬につける鈴に似ていることから、このように名づけられたといわれている。馬鈴薯の原産地は南米のペルー。ヨーロッパが「大航海時代」に突入した16世紀、有名な探検家・コロンブスが新大陸の発見を伝えたことを契機に多くの西洋人がアメリカ大陸へ渡り、そこから持ち帰った馬鈴薯が世界に広まっていった。日本に伝わったのは17世紀の初頭といわれており、江戸幕府体制のもと、ヨーロッパで唯一の貿易相手だったオランダによって伝えられたという。

馬鈴薯は、土壌の栄養を「塊根」と呼ばれる根の部分に蓄える性質があり、我々が食べているのも塊根の部分だ。一定の温度を超えると塊根から発芽するので、農作物として栽培するときは発芽した馬鈴薯を適度な大きさに切り分け、種芋として植える。馬鈴薯は種芋を養分に成長するため、やせた土地でも栽培ができるだけではなく、もともと涼しい地域に自生していた植物だけに、ほかの農作物が不作となるような天候の年でも収穫が望める。こうした特性から、馬鈴薯はヨーロッパ北部でとくに栽培が奨励され、飢饉の際には多くの人々の命を救ってきた。日本でも「天保の大飢饉」の際にサツマイモとともに馬鈴薯が活躍し、大勢の人々が救われたという記録が残っている。

馬鈴薯は長期間保存できるため、非常食として活躍したわけだが、保存する際に光に当たる場所に置くと緑色に変色し、また温度が高いと発芽する。この緑色になった皮付近や発芽した芽の部分には、ポテトグリコアルカロイド（PGA）と呼ばれる毒が多く含まれており、食べると食中毒を引き起こして腹痛や下痢、胃腸障害といった症状がでるので注意が必要だ。

また、魔王が勇者に説明したように連作障害もあるため、継続的に作り続けるためには、肥料を与える必要がある。

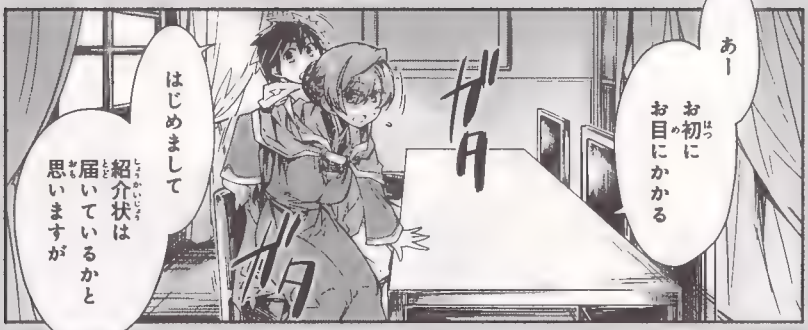
魔王は肥料として魚粕を推している。これは、魚粕に含まれる窒素分が土壌で分解されやすく、かつ作物への吸収速度が速いことや、海産物に由来するアミノ酸が光合成を経なくても植物に吸収されるため、悪天候が続いても作物がよく育つといった利点によるものだろう。

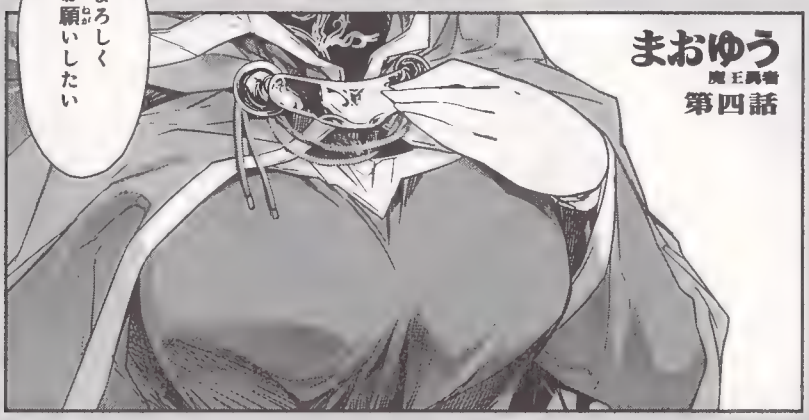


「捧げ物」と表現したのは、まだ耕地に肥料を与える概念がないからだろう。

伝説の技

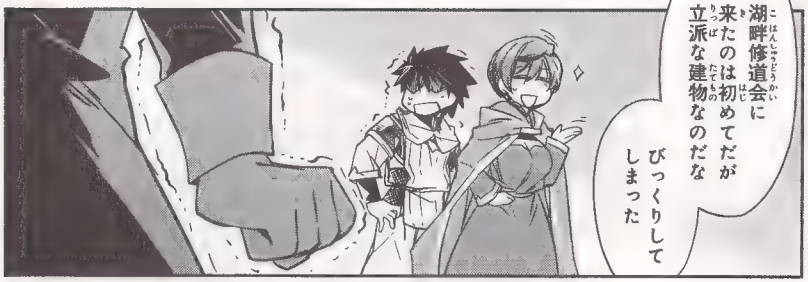
Continue to the next chapter





まおゆう
魔王勇者
第四話

俺はその介添え兼護衛の…
「白の剣士」だ
修道院に入るのは気後れする粗忽者なのだが…
あ…
ご寛恕ください——
い
……あ



第四話 Archenemy and Hero 4th chapter

いままでどこをほっつき歩いていたのだ!

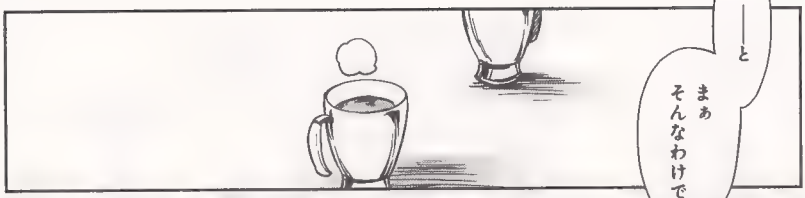
ゆうしゃ!!
ぶあ
なにが「白の剣士」だっ!!
あーその
今までどこほっつき歩いていたんだ!!
いろいろと事情がね?
一年だぞ!?
一年も音沙汰なしで!!
イヤンっ
?
知り合いなのか?
ああそうだよ

旅をしていた頃の仲間でな
俺とこいつ
それに弓兵の爺さんと魔法使いの四人でいろいろと冒険の旅をしたもんだ
攻撃力過多なパーティーだな
回復は俺とこいつでやりくりをね

何が仲間だしらじらしい
私たちを置いてひとりで飛び出したくせに

あんな辺境の町で放り出された私たちの気持ちも考えてみろ
どれだけ勇者を心配したことか…
ってか腹立たしかったか！

私や爺さんは
ともかく
魔法使いは
真っ暗にヘコんで
たんだからな！
すんません
で
今まで
何してたの？
あー…
あー
えーと
！
ああ
すみません
でしたっ
学士様
挨拶もせずに
失礼を…
はぁ
はぁ
私は元聖銀冠
騎士団所属の
「女騎士」
ゆかりあって
今はこの
湖畔修道会で
人々の生活の
向上のために
努めています
女騎士


——と
まぁ
そんなわけで

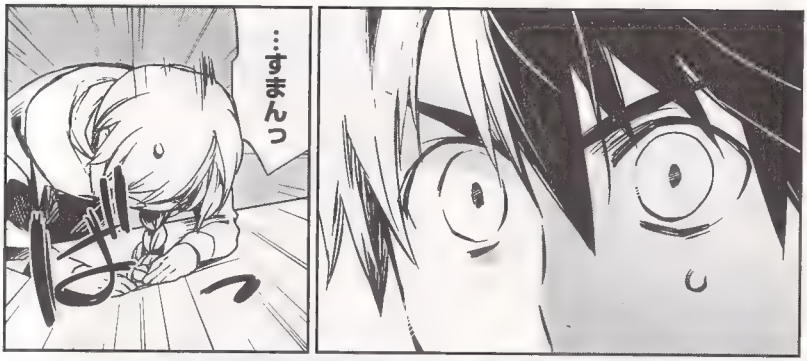
魔王にも手傷を負わせたんだけどさ
魔王軍総攻撃みたいな具合になっちまって退却してきたってわけさ
そうだったのか…

それからまぁいろいろ事情があって表舞台には顔を出せなかったっていうか…
ボロ出す前に話を変えねば…
そっちはなんでこんなところで修道院長やってるんだ？
私はもともと出身がこの辺なんだ
前にも言ったぞ
騎士の叙勲を受けたのも教会でだったし協会所属の騎士なの

……実は
勇者が魔王城に向かったあと
それを諸王国本部へと報告して
ひと月経った頃
特使が来た
…勇者が出かけてその身を顧みず魔王に一矢浴びせたって
そう言って仲間全員に恩賞金が出たんだ
…私は断ったけど
国の要職に取り立てるとも言われたんだけど
勇者をダシにして出世するなんてイヤだった
だから故郷に戻って今度はみんなのためになる仕事をしようと思ったんだ
立派な志じゃないか
女騎士は以前からやる時ゃやってくれる男気あふれた仲間だと思ってたんだよ
……はぁ
ズズズ
ズゴゴゴ…
ズゴゴゴ…
ズゴゴゴ…

弓兵の爺さんは
もともと
兵士だったし
諸王国軍に帰った
南部のどこかの国の
諜報部にいくんだって
言ってたよ
恩賞金もらってた
…その
すまん
なんで
謝るんだ？
出世もしたんだな
俺の活躍で
恩賞金が出たんなら
それってすごく
いいことじゃないか
で
魔法使いは？
あいつも金
もらってただろ？
ああ見えて
守銭奴だからなー
マジ？
あいつは味わいのある
ヤツだからなぁ
魔法使いは…
ひとりで行った

勇者を追って
魔界へ


…すまんっ

…止めたんだろ？
もちろんだっ！
でも 次の朝 荷物が 無くなってて たぶん……

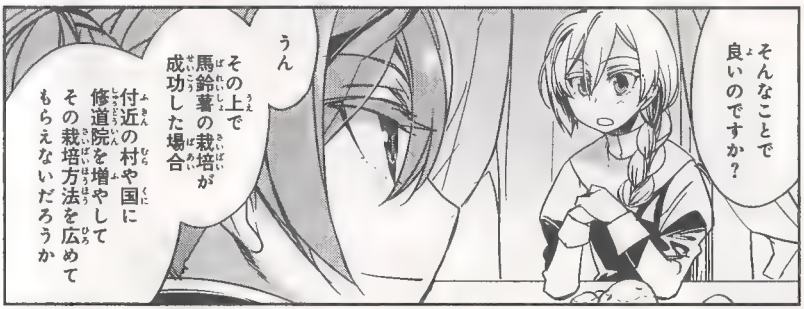
じゃ しかたない
気持ちはわかるけど 女騎士が気にやむこと じゃないさ
もとはと言えば俺が ひとりで突っ込んだせいなんだろうしな
勇者…

それより
今日は交渉だの
相談だのが
あってきたんだ
紹介状に書いて
あったことか
ま…じゃない
学士
改めて挨拶
させてもらおう
紅の学士と
呼んでほしい
はじめまして
勇者のもと仲間の
女騎士です
今日来たのは
この修道会の
お力をお借り
するためだ
うかがい
ましょう
まず
これを見て
ほしい

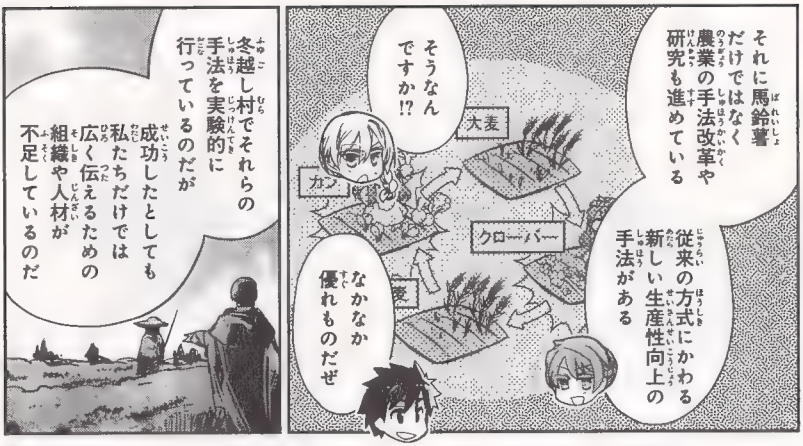
ゴロ
ゴロ
これは？
馬鈴薯という植物だ
詳しい情報はこちらに記してあるが…
要点をまとめると寒冷地でも耕作可能な農作物で——
単位面積あたりの収穫量は小麦の3倍に達する
——!?
もちろんいくつかの注意点もあるが作物としては多くの優位性がある
栽培をけしてむだにしない

——おわかりだと思うが
…この作物は多くの飢餓者を救える
——そうだ
どのような助力を当修道会にお望みですか？
金銭ですか？
それでしたらどのような手段を用いても
できる限りの謝礼を用意させていただきます
ほら見ろ勇者
これがこの作物に対する知恵ある人物の対応だ
悪かったなぁ反応が鈍くて

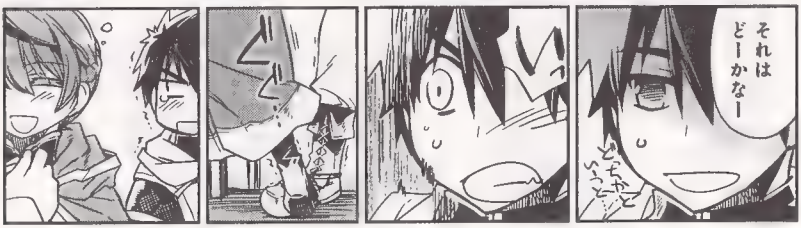
金銭的な援助も
あればあっただけ
嬉しいが
当面の目的は
そうではない
冬の国辺境に
冬越しの村という
寂れた寒村がある
その村に修道院を
建ててほしい
その修道院を中心に
この馬鈴薯の
栽培方法を農民に
指導してほしいのだ


そんなことで
良いのですか？
うん
その上で
馬鈴薯の栽培が
成功した場合
付近の村や国に
修道院を増やして
その栽培方法を広めて
もらえないだろうか

それは我が修道会の
理念にのっとって
いますし
修道会の影響も
増えますから
こちらにとっては
得ばかりの話ですが
学士様にとっては
どのような得が
あるのですか？
実はこちらの
目的も 馬鈴薯の
栽培方法の伝播でね


それに馬鈴薯だけではなく農業の手法改革や研究も進めている
従来の方式にかわる新しい生産性向上の手法がある
なかなか優れものだぜ
大麦
カブ
クローバー
麦
そうなんですか!?
冬越し村でそれらの手法を実験的に行っているのだが
成功したとしても私たちだけでは広く伝えるための組織や人材が不足しているのだ

そういった点で協力し合えればと考えている——
貴女は光の精霊様に遣わされた御使い様に違いありませんっ!


それはどーかなー

そのようなことであれば
出来うる限りの――
ええ
私自らが
冬越し村へと赴き
修道会の
総力を挙げて
助力いたしましょう！
ばっ
ええ!?
ご厚情
痛みいる

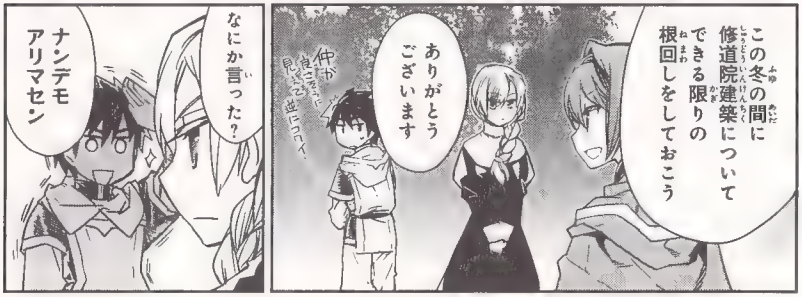
なにか文句
あるのか？
勇者
いやその
えーと
俺の近くにいると
いろいろ
面倒ごとが…
ね？
ホラ俺って
危険をはらむ
ニヒルな勇者
だ…

そんなのずっと
前から体験済みだ
は…
それとも私が
冬越し村に行くと
何かまずいのか？

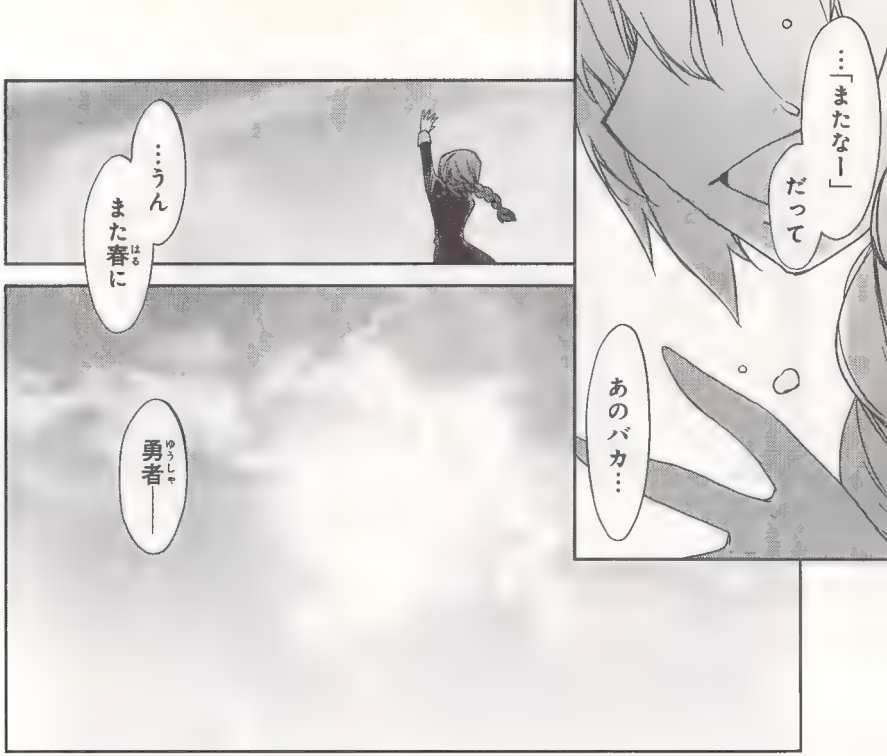
協力してくださる
修道会の長に
失礼があっては
いけないぞ
勇者
えっ
…余裕が
おありですね
余裕などない
台所事情ゆえ
こちらの修道会に
協力を求めたのだ
私は
契約至上主義者ゆえ
契約の相手には
最大限の敬意を
払うことにしている
ギャー
ガリ
ガリ…

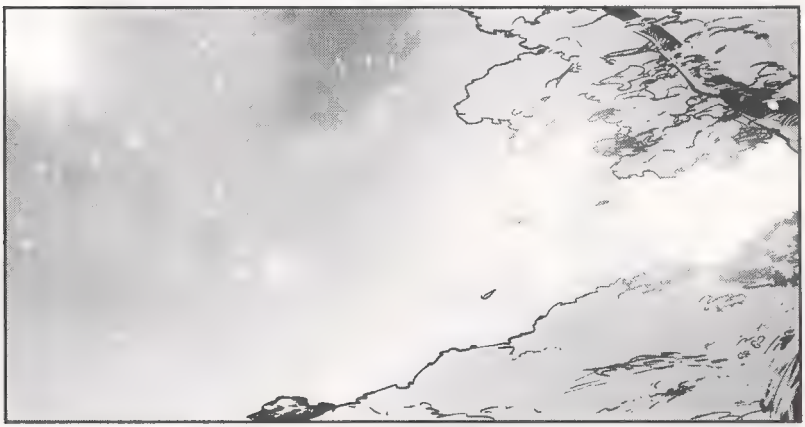
ともあれ
二度と会えないかと
思った…
いえ 一年ぶりに
会うことにできた
勇者とともに
このような恩恵の
食物をもたらして
くれた学士様も
光の精霊の
お導きという
ものでしょう
――いや
これは
純粋に人為
…魂もつ者の
努力だ
…ええ
そうですね
そのとおりです

では
冬越し村で
会えるのを
楽しみにしている
はい
この修道院の
後任院長を決めて
春一番でそちらへと
向かいましょう


この冬の間に
修道院建築について
できる限りの
根回しをしておこう
ありがとう
ございます
仲間
なにか言った？
ナンデモ
アリマセン

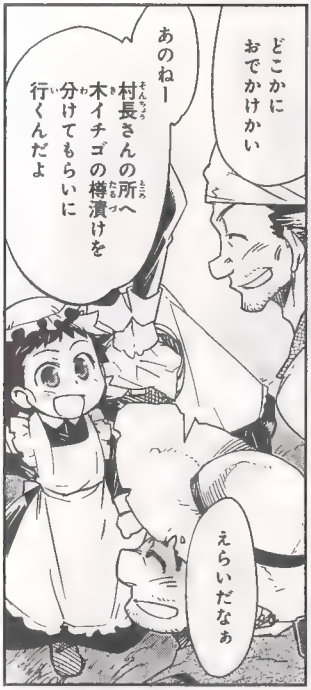
では春に！
ああ
春にお目に
かかろう
またなー


…「またなー」
だって
あのバカ…
…うん
また春に
勇者――



ほーい
ほーい
おーういい
狩人さん
どうしたー?
今日は
いい天気
だなやー
うさぎが四羽も
獲れただよ
今年はいい年に
なりそうだ
そりゃすごい
もうすっかり
春だなや
今年はイノシシの
塩漬けがまだ
たくさんあるしな
ああ びっくり
したなや
村外れの剣士様の
おかげだなー
熊もつぶして
くれて 森の
風通しがいい
みたいだなや
噂をすれば
村外れの館の
姉妹だなよ
本当だ
ほーういい

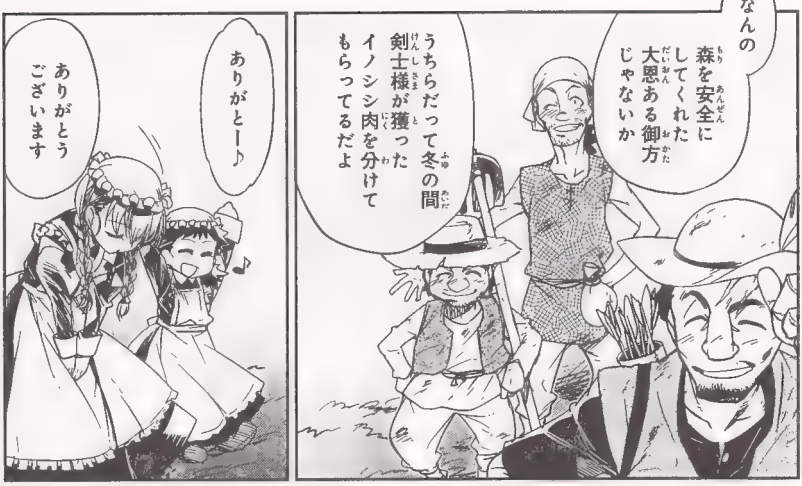
こんにちは
みなさん
こんにちは～

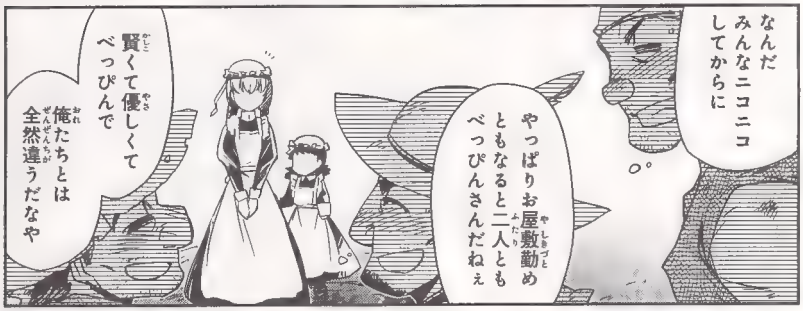

どこかに
おでかけかい
あのねー
村長さんの所へ
木イチゴの樽漬けを
分けてもらいに
行くんだよ
えらいだなぁ

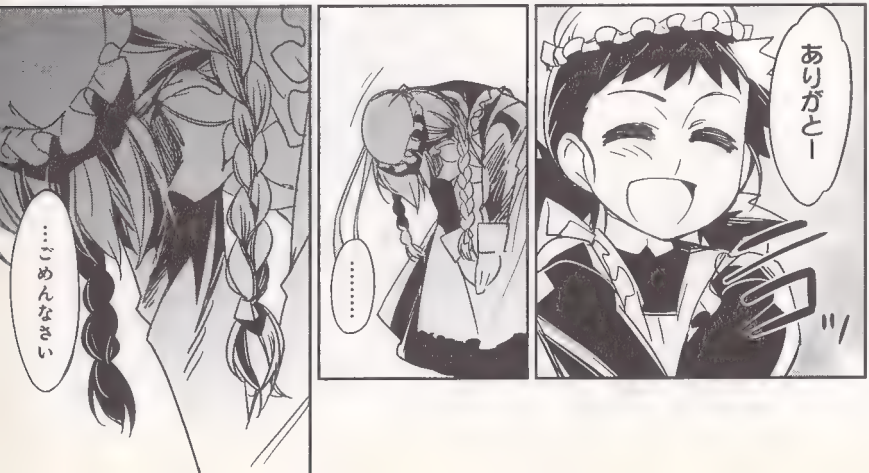
お客さんでも
くるんかい？
はい
そのようです

ふむ

そういうことなら
このウサギを
持っていくといいだ
おう
沢で採ってきた
クレソンも
分けてやるだ
キャーい
えっ
いいんですか？


なんの
森を安全にしてくれた大恩ある御方じゃないか
うちらだって冬の間剣士様が獲ったイノシシ肉を分けてもらってるだよ
ありがとー♪
ありがとうございます


なんだみんなニコニコしてからに
やっぱりお屋敷勤めともなると二人ともべっぴんさんだねぇ
賢くて優しくてべっぴんで俺たちとは全然違うだなや


ありがとー
……
…ごめんなさい

よっ
ぎゅう
むー
ぎゅー
うっし
こんなもんか
ぱんっ

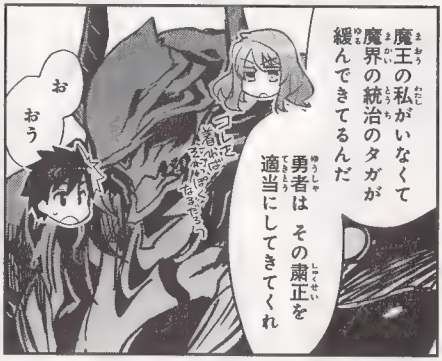
こんな深夜に完全武装か
ひゅっ

私に内緒で旅立つつもりだったのか？
…私のものの くせに

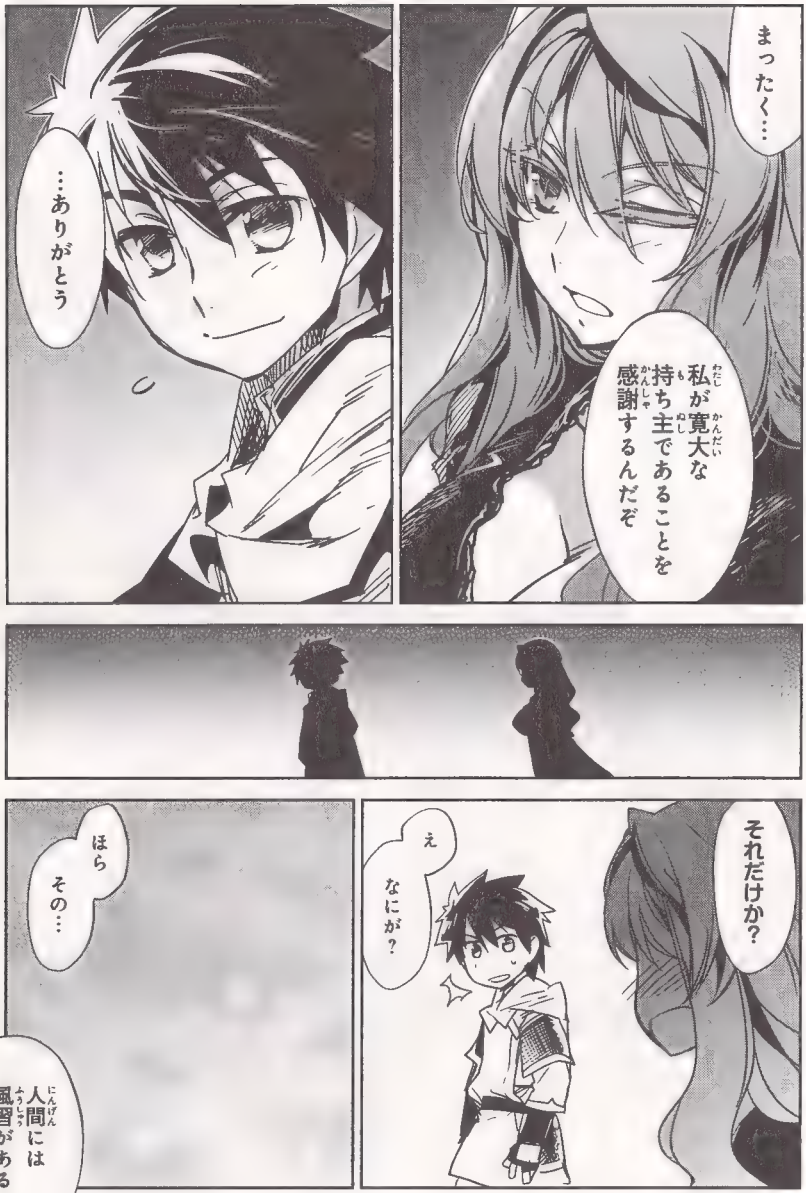
魔王…
ごめん
やっぱり魔法使いを放ってはおけないんだ

なんだ その
情けない顔は
勇者だろうに
私はお前の
ものなんだぞ
そしてお前は
私のものだ
……
私がお前を
止めるとでも
思ったのか？
え？
見くびらないで
もらおう
こっちだ
ガチャ…
……
これは…！

先々代だったか？の
魔王が使ってたという
黒緞鋼の鎧兜だ
呪いの類は
かかっていないから
安心していい


魔王の私がいなくて
魔界の統治のタガが
緩んできてるんだ
勇者は その粛正を
適当にしてきてくれ
おおう

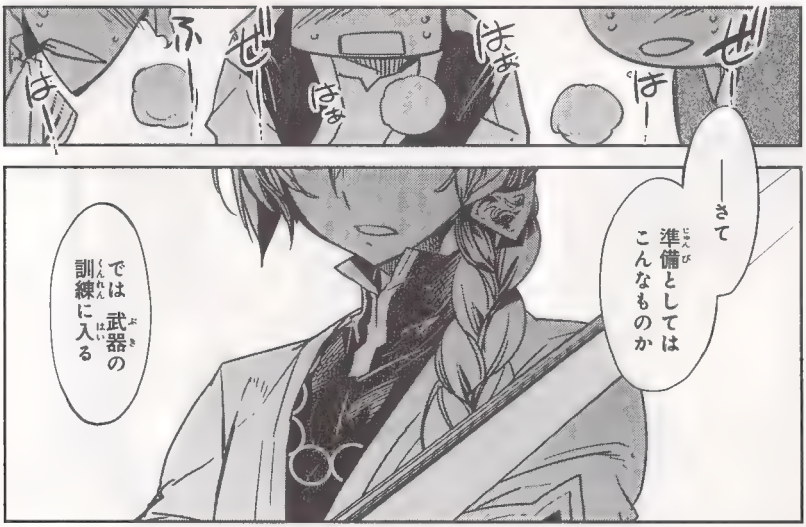
信用できそうな
部族の族長の
リストと紹介状だ
人捜しなら
助力の必要も
あるだろう

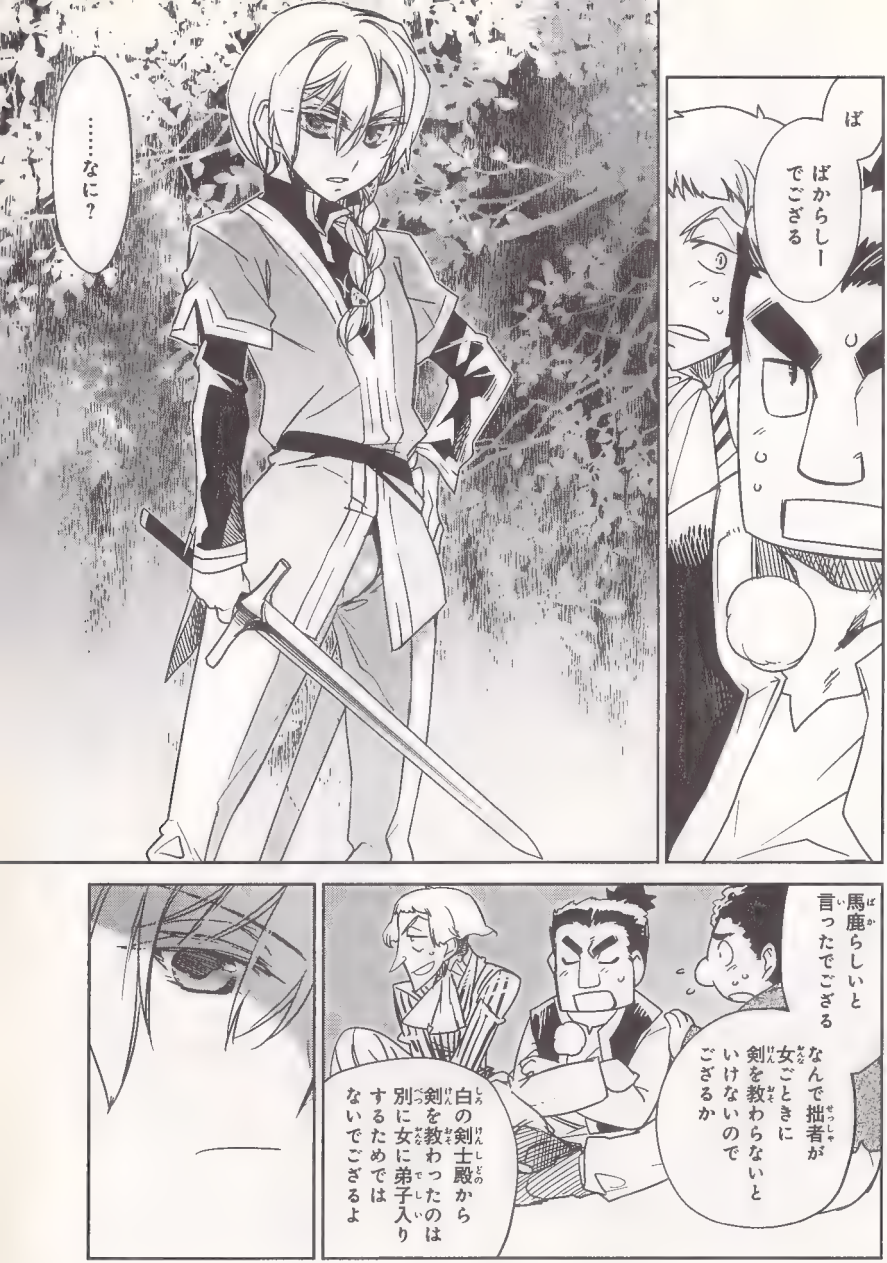

まったく…
私が寛大な持ち主であることを感謝するんだぞ
…ありがとう
それだけか？
え
なにが？
ほら
その…
人間には風習があるのだろう？

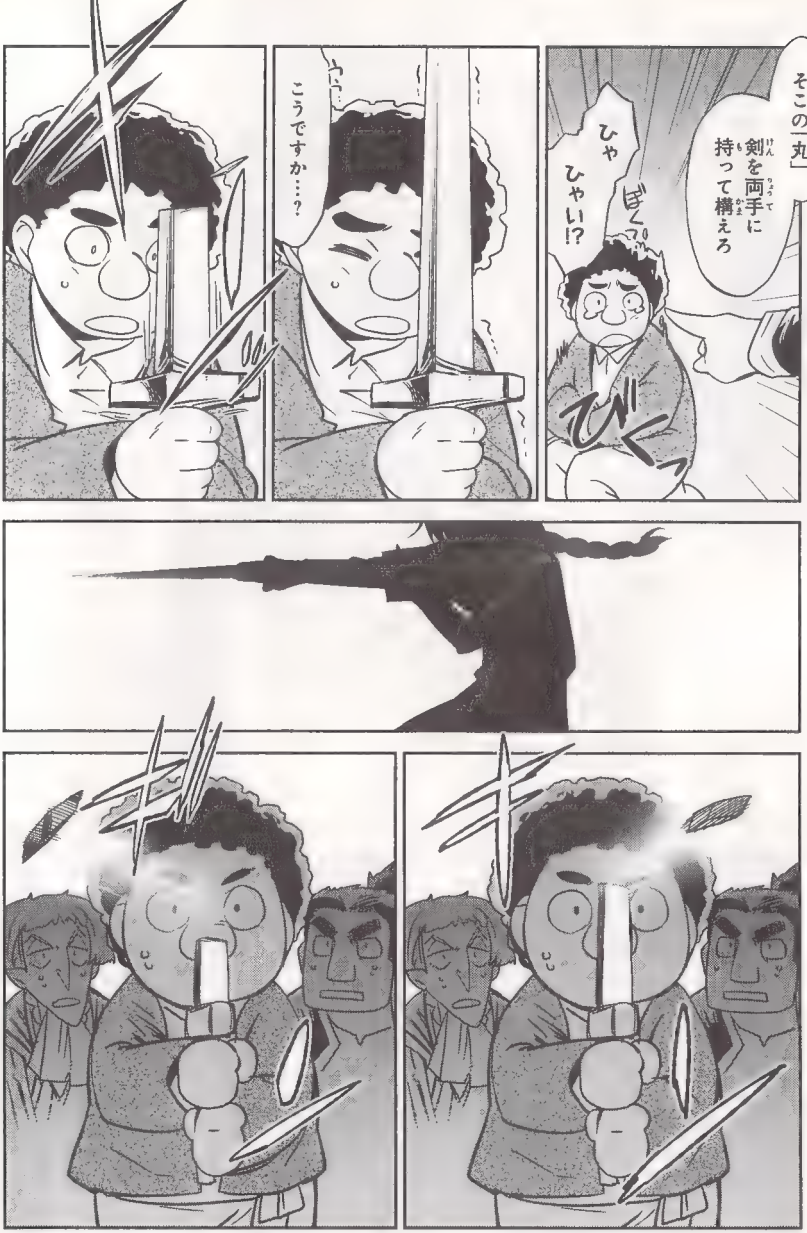
風習？
その
なんだ…
親しい人と…
というか
親しい男女が
別離する時の…
特別な
風習だ
ぁ
ああ…
…駄肉だから
ダメか？
なんで
そうなる？

あ
…おでこではないか
残りは帰ってからっ！
んじゃそゆことで！
ガシャ
ガシャ
あっ

約束だぞ 勇者！
必ずだぞっ!!
ヒュー


ふー
はぁ
はぁ
はー
――さて
準備としては
こんなものか
では 武器の
訓練に入る


ば
ばからしーでござる
……なに？
馬鹿らしいと言ったでござる
なんで拙者が女ごときに剣を教わらないといけないのでござるか
白の剣士殿から剣を教わったのは別に女に弟子入りするためではないでござるよ


おい
そこの「丸」
剣を両手に
持って構えろ
ひゃ
ひゃい!?
こうですか…?

そこの「ゴザル」に言っておく
私は湖の国の女騎士
かつて勇者と共に魔界で千の戦いをくぐり抜けてきた女だ
ゆ
勇者
勇者様の!?
ま
ま
まさか
『鬼面の騎士』!?
『怪力皇女』!?
『石壁しぼりの女夜叉』!?
いろいろ酢しいじゃないか
ゴザル
ガー
ガー

これは別に怪力じゃない技だ

コツさえ習得すれば諸君らでも実行可能だ

勇…

白の剣士は素質がありすぎでな

ガッ

ピャーッ

なんでも「なんとなーく」でやってしまうので教師としては不適当なのだ

もしかして白の剣士殿は女騎士殿の弟子だったのですか!?

そうか！

そうでござったか…

うむ

そういうような…

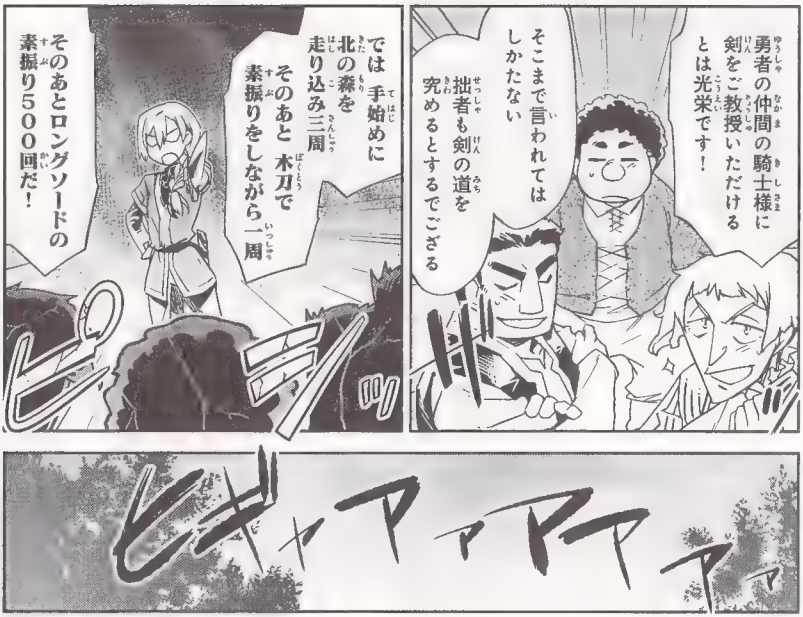
そういうことだ

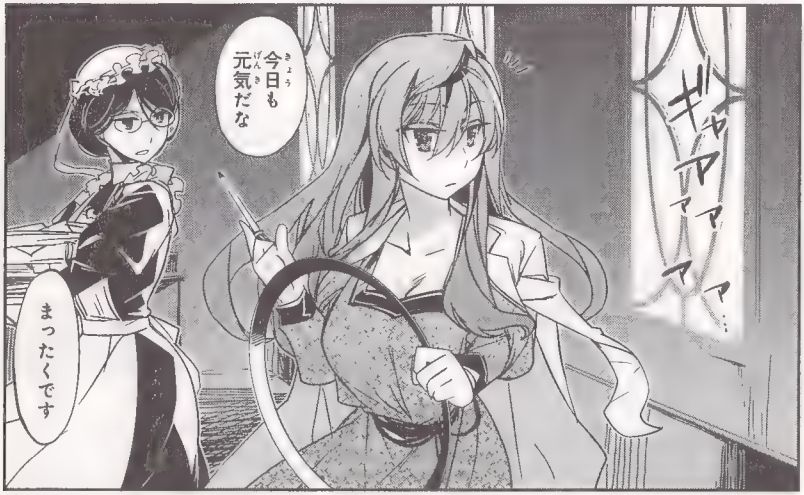
白の剣士は勅命を帯びて探索の旅に出ている

そういうわけで週に四回の戦闘訓練はしばらくの間私が受け持つ

私は白の剣士と違って理論的かつ実践的、基本に即した教練方法を採用するつもりだ

諸君らの武芸を必ずや実用の域まで高めよう


勇者の仲間の騎士様に剣をご教授いただけるとは光栄です！
そこまで言われてはしかたない
拙者も剣の道を究めるとするでござる
では 手始めに北の森を走り込み三周
そのあと 木刀で素振りをしながら一周
そのあとロングソードの素振り５００回だ！
ヒギャアアアアアア


ギャアアアアア
今日も元気だな
まったくです

でも
女騎士さんは
あれで結構
楽しそうですよ？
そうなのか？
勇者がいなくなって
おしりに矢が刺さった
アナグマのように
怒り狂っていた
ではないか
頼りにされると
張り切ってしまう人
なんでしょう
かわいらしい
人ですよ
まおー様より
引き締まった身体ですし
む
いえいえ
まおー様もスタイルは
悪くないんですよ？

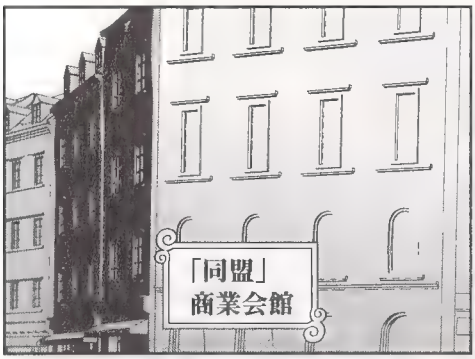
しかし
肉体性能は
お色気か
癒し系ですのに
ご本人の性格が
お色気とも癒しとも
まるで無関係なのが
まおー様の泣き所
でしょうか？
はぁ…
きりきり
放っておけ

よし
できた
ポニャ…

何を作って
らしたんです？
呼び寄せた職人に
依頼していた試作品だ

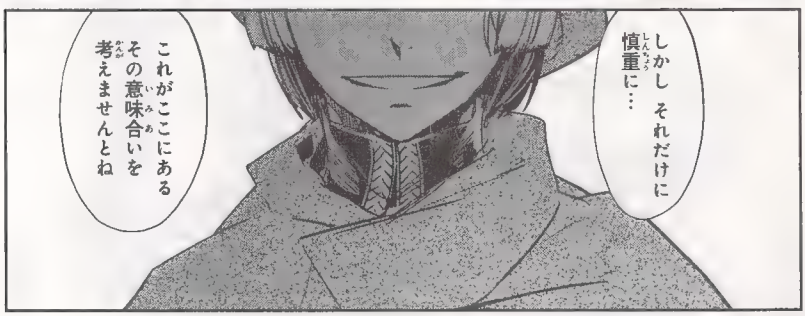
――これで…

「同盟」と
接触する


「同盟」
商業会館

波濤の国
湾岸都市

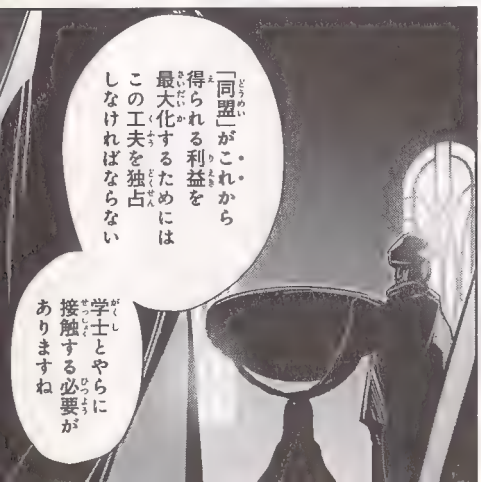
こいつはすごい
世界を変える発明だと
言っていいだろう
これさえあれば
貴方の…いえ
私たちの夢である
幹部への道も開けるでしょう


しかし それだけに
慎重に…
これがここにある
その意味合いを
考えませんとね

まず第一に
これを発明したのは
私じゃありません
私にこれを届けた
人間がいるんです
その人の思惑を
考えなければ
いけませんね

差出人の身元は
わかっているのか？
ええ
同封の手紙には
冬の国の冬越し村に住む
紅の学士とあります
冬越し村…
確か 今夏に
湖畔修道会の
修道院が
できた所です

冬の国は
湖畔修道会の
勢力範囲では
ありません
その辺境に突然
建設したことに
不自然さを感じます
何らかの関係が
ありそうだな


「同盟」がこれから
得られる利益を
最大化するためには
この工夫を独占
しなければならない
学士とやらに
接触する必要が
ありますね

終 第四話 いままでどこをほっつき歩いていたのだ!

修道院と修道会の役割

独自に培った知識を活用して
地域住民を支える“修道院”と、
修道院によって構成された
“修道会”それぞれの役割とは。

「まおゆう」の各修道会は「光の精霊」を信仰している点で共通している。

修道院と修道会の成り立ち

〝修道院〟は、我々の世界では禁欲生活を送るキリスト教の修道士たちが共同生活を送る場として建設した施設のことで、その起源は古く4世紀ごろまでさかのぼる。

もともとは、キリスト教の教義をより深く追求しようと考えた一部の信徒たちが、俗世を離れてひとりで禁欲生活を送りはじめたのが修道士の原点だ。こうした人々が、やがて日々の信心業を集団で行なうようになり、さらに一歩進んで共同生活を送る人々が登場。生活の場として修道院を建設したのである。

当初、各修道院は同じ信仰をもちつつも、それぞれ独自に活動していた。しかし、おもにカトリック教会で各修道院を組織化する動きが起こり、その結果、誕生したのが〝修道会〟である。

修道会にはさまざまな会がある。福祉団体的な修道女会や、布教を目的とした修道会も誕生したが、カトリック教会の修道会である以上、みな同じ教義だ。日本では、キリスト教を伝えた「イエズス会」が有名だが、これもそうした修道会のひとつである。

修道院が果たしていた役割

修道院の制度を整えたのは、ベネディクトゥスという人物だといわれる。彼が「自らの労働によって生活しつつ修道すること」を重視したことから、修道院での生活は自給自足が原則で、外界との接触はどうしても人手できない品を購入する程度に限られた。

このため、修道院では農業技術や医療などの分野をはじめ、多種多様な知識が独自に集積されていき、結果的にその恩恵を地域の人々に分け与えることになった。

修道院が蓄えた知識として、礼拝に欠かせないワインや薬草酒であるリキュールの醸造法をはじめ、輸作の伝播などが比較的知られている。とくに医療分野は突出しており、病院の起源が修道院という話は有名だ。

「まおゆう」では、かつて勇者と旅をした女騎士が「みんなのためになる仕事をしたい」という動機から、修道院の院長を務めていた。修道院は、救いを求める人だけでなく、人々の役に立ちたいと志す人にとっても、うってつけの場所なのだ。

修道院は独自に蓄えた知識を活用して地域の人々にも恩恵を施していた。

橙乃ままれ×石田あきら

「まおゆう」の世界を漫画化した
漫画家・石田あきらと小説家・橙乃ままれ。
二人のクリエイターが語る
作品へ対する熱き想いとは？
新たなる「まおゆう」エピソードが
ここで明かされる。

橙乃ままれ
多数の作品をインターネットで発表し、支持を得ている作家。「まおゆう」のほか「ログ・ホライズン」シリーズも書籍化され、高い人気を誇る。

石田あきら
本作を手がける漫画家。ファンタジーやバトル作品を得意としており、過去作としては大人気アニメのコミカライズ「CANAAN」（全3巻）がある。

スレッドから漫画化まで

――「まおゆう」は、橙乃さんが2ちゃんねるのスレッドで発表された物語を、エンターブレインが書籍として発売。それをコンプエースで漫画化して、この度コミックスの第1巻が発売という運びとなりました。橙乃さんは初めて漫画化の話を聞かれたとき、どんな感想をもちましたか？

橙乃：当時はまだ、自分の書籍が世に出るという話さえ眉つば的な感覚があって「こんなにうまくいっていいのか。実はだまされているのではないのか……」という戸惑いがありました。なのに、さらに漫画化の話なんて、余計にリアリティを感じられませんでした。だから、実際にネームが上がってきて、それを見たときはかなり衝撃的でしたね。「おいおい！　漫画になっちゃってるよ！」と（笑）。

「まおゆう」の漫画を描きたい、描いてみたいという思いがありました（石田）

――漫画化はどのような経緯で決まったのですか？

石田：当時、コンプエースの担当さんとはオリジナルものの新連載に向けた打ち合わせをしていました。その話の合間に、ぼくがネットにあった「まおゆう」を紹介したんです。そうしたら、数日後に担当さんが「これから漫画化の企画を交渉しにエンターブレインへ行ってきます！　漫画家候補に石田さんの名前も挙げてもいいですか？」と、いきなり電話してきたんですよ（笑）。実は、ぼくのなかには「まおゆう」の漫画を描きたい、描いてみたい、という強い思いがありました。「どこかの出版社が漫画化を企画しているなら潜り込んでやろう」くらいの気持ちをもっていたんです。そしたら、突然このような話になってしまって……。正直あまりに予想外の展開でした。

――コミカライズの際に、橙乃さんから「こういうふうに描いてほしい」といった要望が出ることはあるんですか？

石田：細かい表現にいくつかもらいましたが、ほとんどないですね。

橙乃：自分としては物語のネタの部分で「ちょっと違うな」という部分以外は、基本的にすべてお任せしています。そういうスタンスに対して少しだけ言い訳させていただくと、「まおゆう」はインターネット上でも連載を終えていますので、メディアミックスの展開は作者のぼくにとっても〝追加されたボーナストラック〟という気持ちなんですね。新しいフィールド

で、みなさんが「まおゆう」を新しく、おもしろいものにしてくれている。ぼく自身も、ファンになってくれた人に混じって、応援しているような気持ちです。本当に嬉しくて……心から感謝するばかりです。

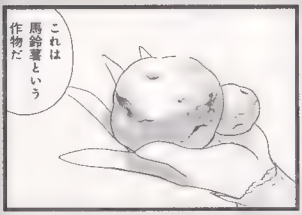
――石田さんの描く作品の印象はいかがですか？

橙乃：石田さんが描くキャラクターの強さや、ラインの強さがカッコいいです。ぼくもそうですが、創作活動とは迷いや悩みの繰り返しです。でも、石田さんの描くラインにはそういう迷いなどが出ていないんです。確信して描いたようなラインで、そこに絵としての魅力を感じます。

石田：……ありがとうございます。うれしいです。

――「まおゆう」は物語上にさまざまな知識が散りばめられている作品ですが、石田さんは漫画を描くうえで、それらを消化するのは大変ではないですか？

石田：情報を一度整理する必要はありますが、語るべき内容は全部作品のなかにあります。ですから、語られている内容を絵で消化したうえで、言葉で伝わるもの以外の要素を加えていければと思います。例えば「馬鈴薯」という名前にピンとこない人でも、ジャガイモの絵を見せればわかる。自分が原作を読んで感じたものを、漫画で初めて「まおゆう」に触れた方にも提供したいですね。



ファンタジーと現実の配分

――橙乃さんにうかがいたいんですが、「まおゆう」はファンタジーと現実が融合した世界観です。なぜ、このような知識がたくさん入った物語を書こうと思ったのですか？

橙乃：当時、歴史などに興味があったのは事実ですが、ほかにも書きたいものはありました。最終的にこれを書くことを決めたのは……出来心に近い気の迷いですね（笑）。

石田：ぼくも聞いてみたかったんですけど、剣や魔法という手段ではなくて、現実にある経済観念や技術で問題を解決していくというアイデアは最初からあったんですか？

橙乃：それに関しては書く前からありました。例えば、魔法なんてファンタジーな手段であって、現実世界には存在しない。魔法を含む〝奇跡と呼ばれるなにか〟で救われるお話って、現実世界には救われる方法がありません、って言われているみたいで寂しいですよね。また実際の生活でも、ニュースなどで見ながら「終わらないなぁ」って思うんですよ。例えば、ゲームなどでは勇者とお姫様が結婚してエンディングを迎えます。でも、今の日本では、結婚した後に3分の1くらいのカップルが離婚しますよね。スタッフロールが流れて画面が真っ暗になった何時間か後に、「しかし、2人は離婚した」と表示される可能性もあるわけです（笑）。つまり話が終わったようでも、実は終わっていないわけで、どこで切るかによって物語というものの印象は変わる、という話です。そういう終わった後の〝真エンディング〟みたいな話を書くのに興味がありました。

「まおゆう」を書くことを決めたのは、出来心に近い気の迷いでしょうかね（橙乃）

「まおゆう」の群像劇といった点に惹かれたというのはあります（石田）

石田：なるほど。一緒に冒険をした男女は、いわゆる「吊り橋効果」で恋愛感情が盛り上がることが多いでしょうけど、日常に戻ったときに果たして夫婦生活が持続していくのかどうかは微妙ということですね（笑）。

橙乃：そうそう。今の離婚話のように、現実には夢も希望もない部分がありますから、あえてもう一回、夢と希望がある話としてそれを書くのがおもしろいかな、って思ってたんです。

――お2人は、昔からいわゆるファンタジーは好きだったんですか？

橙乃：世代的にちょうどブームでしたから、もちろん大好きでしたね。

石田：ぼくらが若い頃は、テレビゲームやRPGが発展していく時期で、「フォーチュン・クエスト」[注2]や「スレイヤーズ」[注3]などのファンタジー小説が全盛期でした。それらが盛り上がる過程をリアルタイムで見ていましたから、それが創作活動の根底に影響したんじゃないかと思います。

――その頃から、創作活動をされていたんですか？

橙乃：物語を読むのは昔から好きでしたが、書くことは実は嫌いでした。最近わかったんですけれど、自分の字がキライだったみたいです。すごく下手なので（笑）。だから、ぼくにとって物語を読むことと書くことはまったく別のものでした。書くことが楽しくなったのは、パソコンに出会って自分の字を見なくても済むようになった、高校生くらいからですね。

石田：ぼくは小さい頃から絵を書くことが好きでした。小学校の頃は、絵がうまくて図工の時間になるとヒーローになれる子がいますが、自分はそんな子供でしたね。基本的に漫画絵を描いていたので、先生に褒められるようなタイプではなかったですけど。そういえば、途中で終わってしまいましたけど、友達と2人で「ドラえもん」の長編を描いていたこともありましたよ。

恋愛要素に込められたメッセージ

――「まおゆう」には、世界を救うという本筋以外に、勇者と魔王の恋物語という面もあります。本来書きたかったのは、本筋とラブストーリーどちらなのでしょうか？

橙乃：自分がもっていたおもしろいネタを全部入れて、寄せ鍋的な話にしようと考えていたので、完全に両方です。

――いろいろな要素が混じっているものを描くのは、漫画家としてはいかがでしょうか。

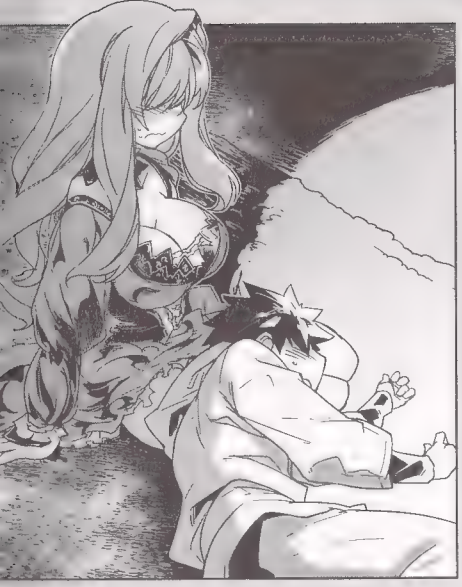
石田：描く対象がたくさんあったほうが描き甲斐がありますね。ぼくは、登場人物は多いけど、全員が同じ方向を見ているわけではない、といった群像劇的な作品が好きなんですよ。だから「まおゆう」のそうした点にひかれて描きたくなったという部分はあります。だからラブストーリーな部分も描いてて楽しいですよ。

橙乃：物語の最初のシーンでは、勇者はひとりで魔王城に乗り込むんですけど、この時勇者は「相打ちでもいい」と思っていますよね。そのあと勇者は魔王や女騎士とラブラブしていくわけですが、そういうことがなかったら「まおゆう」を5冊分書いた最後の最後で、やっぱりなにか強大な存在、世界すべての

ようななにかに、特攻して死んでしまうと思うんですよ。個人としても幸せにならないと、勇者としての役割は全うできたとしても、最終的には死しか選べない、と。というのも、ぼくが以前勤めていた会社にもの凄く仕事ができる先輩がいたんです。会社に情熱をかけていたのですが、結局は体を壊してリタイヤという形になり、ぼくはそれがすごく悲しかったんですね。「私生活の幸せはいらない。自分は会社の物」という姿勢の方だったんですが、それでは会社の大きなプロジェクトは完遂できるけれど、最後は自身が倒れてしまう。先日似た話を知人からも聞きました。だから、魔王様のおっぱいとか膝枕とかは断じて必要な要素ですよっ！（笑）

石田：合間合間に、そういったうるおいも必要だということですよね（笑）。

橙乃：そうそう、絶対に必要なんです。



――先輩の話がありましたが、魔王とか勇者などの登場人物には具体的なモデルがいらっしゃるのですか？

橙乃：基本的にはないんですけど、軍人子弟だけは高校時代の友人がモデルになっています。

石田：え？　本当に「ゴザル」と言っていたんですか？

橙乃：本当に言ってましたよ。愉快でいい奴でした（笑）。

アイデアの生まれる場所

――創作活動中に煮詰まることがあると思いますが、そういうときの解消法はありますか？

橙乃：基本は風呂と散歩です。ただし、夏の散歩は行きたくない。

――お風呂は長いほうですか？

橙乃：ぼ～っと考えごとをするので長風呂ですね。でも、ネタが降りてくるまで入っているわけではないです。ぼくは日常的にいろいろ考えないとダメなタイプなので。

石田：いちばん落ち着けて、降りてくるタイミングも測りやすいということで、お風呂がいいという作家は多いですよね。

橙乃：ただ、お風呂のなかで考えつくことは、いいアイデアに見えがちなのが弱点ですね。あがってから改めて考えてみると８割くらいの魅力しかない（笑）。

石田：ぼくはアイデア出しのときは、ファミレスをめぐったりしてますね。

魔王とか女騎士とラブラブしなかったら、勇者は最後に特攻したと思います（橙乃）

みんなが思い浮かべるキャラクターを描いていきたいです（石田）

記号としてのキャラ名と外見

――「まおゆう」の登場人物たちに名前をつけなかった理由を教えてください。

橙乃：名前をつけないことやセリフだけで進行する手法は、最初に発表した2ちゃんねるの板がそういう文化だったからですね。

石田：もともとは名前のある既存キャラの会話劇がメインで、名無しキャラのものの作品が投稿されるようになったのは後にできた流れでしたよね、たしか。既存キャラであれば、読者もキャラを知っているのが前提としてあって、わざわざ説明する必要がないですし。

橙乃：スレッドを立てるときには、タイトルにキャラ名とセリフをタイトルにするルールで、その時点で「あ、これは○○というキャラの話なんだ」とひと目でわかるから、既存キャラの方が集客力が強いんです。だから、勇者と魔王っていうのは、集客的にはかなりつらくて……（笑）。

――そのなかで人気が出たのがすごいですね。

石田：そういえば、漫画を描いているときに原作がずるいな、と思ったことがあったんですよ。原作ではセリフの頭に「勇者」や「魔王」とつねに出ているじゃないですか。そのたびに読者はそれぞれがもっている勇者や魔王のイメージを思い浮かべますよね。だから、たとえ彼らが「オレは白の剣士だ」とか「私は紅の学者だ」と別名を名乗っていても、頭に「魔王」「勇者」という名前が出ているから、そのままのイメージを想像できるんですよ。

――漫画の場合は、代わりに絵があるわけですが――。

石田：たしかにそうなんですけど、例えば魔王が「私は紅の学士だ」と名乗った場合、学士の格好をした人物がいるだけで、角が生えた魔王はいないわけです。なので、この作品をしっかり漫画化するには、別の格好をして紅の学士を名乗っていても、ちゃんと魔王だと認識できるようなキャラを描いていく必要があるわけです。「まおゆう」には、勇者と魔王以外にも多くのキャラが登場しますけど、読者ひとりひとりが思い描くキャラ像があるわけで、それを描き分けないで済む時点で、あの形式はやっぱりずるいなぁ、と思っちゃいますね（笑）。

橙乃：楽させてもらいました（笑）。これは文字ならではというか、あの形式の利点ですよね。

石田：登場人物たちは比較的テンプレ的なキャラではありますけど、とはいえ読者のなかでイメージされている姿はそれぞれ違うと思います。なので、みんなが思い浮かべるキャラの最大公約数となるキャラを目指して描いていきたいんです。例えば、勇者だったらやはり「ドラクエ」[※4]の勇者を思い浮かべやす

いと思いますし、そういったテンプレの起源を参考にしています。

橙乃：たしかに、ビジュアル的には「ドラクエ」の勇者が最大公約数ですね。

石田：〝勇者〟というイメージを日本の青少年に植え付けたのは、やはりアレだと思います。勇者と聞けば、あの曲が脳内再生されるくらいに刷り込まれているんじゃないかと。それに「ドラクエ」の勇者は基本しゃべりませんから、余計にテンプレになりやすいと思います。逆に3子弟にはテンプレになるモデルが存在しないので、○▽□をイメージしてシルエットで区別できるようにしました。

橙乃：3子弟はどちらかというと、それぞれ見分けがつきやすいほうがベターですよね。

石田：そうですよね。だから、キャラ色を出しすぎない程度にわかりやすさ重視で描きました。ちなみに中年商人は「ドラクエ」のトルネコのようなイメージです。

橙乃：石田さんの漫画では、メイド長を美人に描いていただいていますよね。モデルはあるんですか？

石田：日本であああいうクラシカルメイドを描こうと思ったら、森薫さんの「エマ」[4-5]は外せないので、そこからイメージを少し拝借してます。

橙乃：メイド長は魔王様より美人ですね（笑）。

メイド長は魔王様より美人に描いていただいていますね（橙乃）

石田：あれだけ魔王に強気でいるのだから、キチッとしてて魔王様が言い返せないくらいでないとダメだろうな、と。まあ、描いていくうちにキャラたちも変わっていくと思います。魔王も駄肉が増えていくんじゃないかな、と（笑）。

橙乃：あちこち行くので、衣装も変わるでしょうし。

石田：今のところ、うちの魔王は毎回衣装が変わっていますね。でも、やはりファンタジー色が強い絵を描くのが、個人的にいちばん楽しいです。「まおゆう」は王道ファンタジーをパロディっぽくした面があるので、この王道の部分をがっちり描きつつ、少しだけ外していければ。

橙乃：そろそろ妖精たちも登場しますよね。

石田：そうですね。今後は魔界側も描きますし、勇者も黒い騎士を名乗るので、いろいろコスプレさせつつ描かないといけませんね。

橙乃：そういう意味でも、漫画のストーリーが進行して新しい女の子が出てくることは楽しみなんです。例えば、本編ではあまり出番のない、羽妖精みたいな脇役でも、絵にしていただける可能性があるわけですし。

漫画化にあたり

——石田さんにお聞きしたいんですが、漫画化するときに注意していることは、どんなことでしょう？

セリフで説明している動作を、どのように絵に落とし込むかは注意しています（石田）

石田：セリフで説明している動作を、どう絵に落とし込むかは注意すべきポイントです。例えば「お前、なにプルプルしてるんだよ」という場面だったら、プルプルしているようすを絵にしつつツッコミをセリフにするか、それとも絵だけで突っ込みを見せるかはかなり考えます。「まおゆう」のおもしろさのひとつは会話のキャッチボールにあると思うので、掛け合いのおもしろさと説明のバランスを、どうとっていくかは常に考えていますね。

――原作は卜書き形式のため、人物同士の距離感がわかりにくいですが、絵として描くときにそういったものはどう処理していますか？

石田：掛け合いをする2人の状況もありますが、基本的には人物の配置は会話に入る前に構築する必要があります。それぞれが会話中に移動しまくることはないですから、会話に入る前に配置は決まってくるんですね。だから、例えば第3話の腹枕の構図やシーン展開は、ちょっと工夫したつもりなんです。

橙乃：それは、場面に登場する人物が多いほど難しくなるものなんですか？

石田：いや、逆に楽なんです。2人で会話するシーンというのは構図が練りにくいんです。相対しているのか、並んでいるのか、とか、パターンが少ないんですよ。

橙乃：漫画の第1話は特にそうですよね。

石田：あの回は、勇者と魔王しかいないうえに、会話をしているだけですからね。視点をグルグル回すか、情景描写を入れるくらいしか変化のつけようがなかったので。そういう意味では難易度が高かったですね。でも、ぼく自身があの場面で惹きつけられて描きはじめた部分もありますし、それができなければ今後の漫画としての成立にも関わります。だから、第1話を描くのがいちばん大変で、いちばん重要だと考えてはいましたね。

橙乃：「まおゆう」は複数の出版社で漫画化しているので、各作家さんが原作をどう解釈していくのかも楽しみです。序盤は原作者であるぼくの色が強いと思うんですが、話が進むに連れてどんどん羽ばたいていきます。単行本のラストのコマに関しては石田さんのコマですよ！　読者のみなさんにこれだけは伝えたいのですが、第一巻のラストのコマは各漫画によって全然違うと思います。単行本読者のみなさん、お手元にある一冊が「まおゆう」の漫画のなかでいちばんの見どころだと思いますよ。

石田：たしかに物語が進行していくと、場面転換が激しくなっていきますからね。漫画を描くときに、これをこっちにもってきて、というのはどうしても発生してくるので、そこは漫画家の個性が出るところだと思います。

――それでは、小説家や漫画家になりたいと思っている読者の方に、ひと言ずつお願いいたします。

橙乃：まんまとデビューしちゃってもいいんじゃないか、ってことですかね。目の前にチャンスがあるならデビューして、細かいことはその後で考えればいいのではないでしょうか。あとで本当に実力が必要になって「この戦いに勝たないと生き残れない」みたいな状況は、人生のなかで今後たくさん出てくると思います。でも、そのときは潔く負けちゃえばいいんです。ただ1回失敗したくらいでゲームエンドになるほど世界は厳しくないですし、ただ1回失敗したくらいでリタイアさせてくれるほど人生って甘くないと思うので。デビューしちゃったら、その中で最善を尽くす。と、自分にも言い聞かせています（笑）。

石田：とりあえず、描きたいものがあったらとにかく描くってことですね。漫画家は作品を作らないことには先に進めないので、どんなに未熟だろうが、どれだけ時間がかかろうが、最後までひとつ作品を作りきることが大事です。それを投稿しても、ネットで公開してもいいですが、なにかを悩むのは作品をひとつ完成させてからでいいと思います。それでなにかしらの結果は得られますし、自分にできること、できないこともわかると思います。次に向かう糧には必ずなるので、次はそれを力にして進むわけです。

**チャンスがあったら
まんまとデビューして
しまうのがいいと思います（橙乃）**

――なるほど。では最後に、このコミックスを読んでいるファンに向けて、メッセージをお願いします。

石田：原作がおもしろい作品なので、ぼくが読んで感じたことをそのまま漫画でみなさんに伝えられるよう、ぼくが好きな「まおゆう」を精一杯描いていこうと思います。

橙乃：ぼくは小説やマンガを問わずですが、「読む」という行為は読者との一期一会な部分があると思います。初めて「まおゆう」に触れる方はもちろん、原作を読んだことがある方も、改めてこのコミック石田版「まおゆう」に出会って、新たなおもしろさをみつけてください！　格好よくて素敵な漫画です！

※1「2ちゃんねるのスレッド」
「まおゆう」は、はじめは巨大ネット掲示板「2ちゃんねる」で「魔王「この我のものとなれ、勇者よ」勇者「断る!!」」というスレ名で発表された。その後、加筆修正を施された書籍版がエンターブレインより発売される運びとなった。

※2「フォーチュン・クエスト」
深沢美潮が手掛けたファンタジー系ライトノベル。1989年のシリーズ第1巻を皮切りに、漫画やアニメも制作された。剣と魔法といったファンタジー要素とあわせて、レベルや保険といった現代的要素が盛り込まれた世界観が特徴。

※3「スレイヤーズ」
神坂一のライトノベル作品。1990年から富士見ファンタジア文庫より刊行されており、現在も続編や外伝が制作されている大人気シリーズ。天才魔道士のリナ＝インバースを中心とした、コミカルあり、シリアスありの冒険活劇。

※4「ドラクエ」
1986年にスクウェア・エニックス（旧エニックス）が発売したゲームソフト「ドラゴンクエスト」、及びシリーズ作品の愛称。

※5「エマ」
2002年から「コミックビーム」で連載された、森薫による漫画作品。19世紀後半のイギリスを舞台に、身分を超えた恋模様が描かれている。主人公のエマは、メガネが似合うメイド。2005年にはテレビアニメ化もされた。

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」①

漫画 石田あきら　原作 橙乃ままれ　キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

2011年8月26日初版発行
2012年3月7日第7刷発行

発行者
新名　新

発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 共同印刷株式会社　製本 本間製本株式会社

初出／『月刊コンプエース』'11年6月号～9月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2011 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2011
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-715766-8 C0979

まおゆう 魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」
漫画 石田あきら 原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8
第一巻
Kadokawa Comics A

Illustration
Ishida Akira